

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本卵子学会、日本受精着床学会、日本臨床分子形態学会
※	日本動物学会
※	日本蛋白質科学会、日本バーチャルリアリティ学会
※	糖尿病学会
※	日本動物学会
※	日本ウイルス学会、日本寄生虫学会
※	日本RNA学会
※	日本薬理学会、日本毒性学会
※	日本解剖学会
※	英国発生生物学会
※	ウイルス学会
※	日本ウイルス学会
※	日本糖質学会
※	日本細胞外小胞学会、日本DDS学会
※	日本骨代謝学会
※	日本生理学会、日本循環器学会、日本獣医循環器学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本寄生虫学会
※	日本脂質生化学会、日本薬学会
※	日本薬理学会、日本認知症学会、日本神経化学会
※	日本歯科保存学会
※	日本宇宙生物科学会
※	日本繁殖生物学会、日本エピジェネティクス研究会、日本人類遺伝学会、日本ゲノム編集学会
※	日本動物学会、日本解剖学会
※	日本血液学会、日本小児科学会
※	日本動物学会
※	寄生虫学会、バイオインフォマティクス学会
※	日本ウイルス学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本比較内分泌学会、日本内分泌学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本血管生物医学会
※	日本薬理学会、日本腎臓学会、日本タンパク質学会
※	日本ウイルス学会、日本植物病理学会
※	日本放射線影響学会
※	日本血管生物医学会、日本病理学会
※	日本薬学会、日本糖尿病学会、日本酸化ストレス学会
※	日本獣医学会 日本細菌学会
※	日本プロテオーム学会
※	日本薬学会、米国細胞生物学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本RNA学会、日本動物学会、極限環境生物学会、日本新が学会
※	日本細菌学会
※	日本プロテオーム学会
※	日本がん転移学会
※	日本再生医療学会、解剖学会、ISSCR
※	日本進化学会、日本獣医学会
※	日本RNA学会、日本進化学会
※	日本ウイルス学会、日本エイズ学会
※	日本RNA学会、日本再生医療学会、日本神経化学会
※	日本骨代謝学会、日本軟骨代謝学会、ASBMB、米国癌学会、米国骨代謝学会等
※	日本RNA学会
※	骨代謝学会
※	日本植物病理学会 日本ウイルス学会
※	北米神経科学会、日本薬理学会
※	日本循環器学会、日本循環制御医学会、日本心不全学会
※	日本血管生物医学会
※	日本RNA学会
※	実験動物学会
※	日本RNA学会、The RNA Society
※	日本放射線生物学会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	日本生理学会、日本病態生理学会、日本糖尿病学会、日本糖尿病合併症学会、日本糖尿病・肥満動物学会、日本神経学会、日本末梢神経学会
※	RNA学会 無細胞研究会
※	日本神経化学会
※	日本プロテオーム学会
※	日本人類遺伝学会 日本研究皮膚科学会

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	植物学会、育種学会
※	日本放射線影響学会
※	日本植物病理学会
※	日本水産学会、日本比較免疫学会
※	日本ウイルス学会
※	日本糖質学会、日本寄生虫学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	日本育種学会、日本ゲノム編集学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本生物工学会、化学工学会
※	日本薬学会
※	日本動物学会
※	日本解剖学会
※	歯科基礎医学会、日本薬理学会、日本骨代謝学会、日本骨免疫学会、有病者歯科医療学会
※	日本動物学界
※	日本生体防御学会、日本エピジェネティクス研究会
※	日本神経化学学会
※	日本生理学会
※	日本植物生理学会
※	日本cell death学会
※	日本化学会、CBI学会
※	日本解剖学会
※	日本ゲノム編集学会、日本生物工学会
※	日本遺伝子細胞治療学会
※	日本内分泌学会米国内分泌学会
※	実験動物学会
※	日本血液学会、日本検査血液学会、電気泳動学会など
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本矯正歯科学会、日本小児歯科学会、日本口蓋裂学会、障害者歯科学会、日本歯科心身医学会、日本顎咬合学会
※	日本実験動物学会、日本ゲノム編集学会、モロシヌス研究会
※	日本薬理学会
※	日本薬学会
※	日本植物学会、日本育種学会、日本植物バイオテクノロジー学会、日本RNA学会、植物化学調節学会
※	日本物理学会
※	日本実験動物学会、日本動物遺伝育種学会、日本畜産学会、日本糖尿病学会、日本糖尿病・肥満動物学会
※	日本RNA学会、日本植物学会
※	日本生物工学会
※	日本RNA学会、日本ケミカルバイオロジー学会
※	日本化学会
※	骨代謝学会
※	日本科学教育学会、日本医学教育学会
※	日本細胞生粘菌学会
※	日本プロテオーム学会
※	日本脂質生化学会
※	日本RNA学会、日本エピジェネティクス研究会
※	日本寄生虫学会
※	日本動脈硬化学会、中性脂肪学会
※	日本植物学会
※	日本薬理学会アメリカ細胞生物学会
※	日本放射線影響学会米国放射線影響学会
※	日本動物学会、日本農薬学会
※	日本筋学会
※	蛋白質科学会
※	薬学会
※	日本RNA学会
※	日本ミトコンドリア学会
※	日本バイオインフォマティクス学会、

質問5-2. シンポジウムについて <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者番号	テーマが偏っている記述
※	同じタイミングで似たワークショップやシンポジウムがある。
※	偏っている、というか、ミトコンドリアに関するテーマがいくつもあったりして、重複はあると感じた
※	ワクチンに関して、テーマ内容がずれていて、結局聞かなかった。
※	シンポジウムでやるには、偏り過ぎていて、気軽に聴きに行ける内容っぽくない。どちらかというワークショップというような感じでは。内容をもう少し、広範なものを含まれるようにして、発表者に多様性を持たせると良いような。
※	偏っているとは思わないが、毎年同じようなメンツ・同じようなテーマのシンポジウムがあるように思った。また、分子生物学会は、「ウケれば勝ち」「面白いこと言ったもん勝ち」「意外な言葉を使えばウケる」のようなノリが行き過ぎではないかと危惧している。真面目な研究、わかりにくい重要な研究をさげすむような雰囲気は少なからず感じる。ウケ狙いの研究はあっても良いし、面白い視点や言葉を提供するのも重要だが、節度やバランスも考えるべきではないか。また、主催者やオーガナイザーが「〇〇な学会にしたい!」「自分の色を出したい!」という考えが強すぎるのときに辟易する(多少は多い、一部被っている)
※	プロジェクト研究グループの発表会のような印象が強い。学会の色がない
※	in vivo系のテーマをもっと増やした方が良い
※	RNAなど同じようなセッションが多かった。もうすこし病態に関係するようなシンポジウムを増やしてほしい。生化学会と連携してほしい。
※	植物に関するテーマが少なかった。
※	オンライン発表の時代では、他の追従を許さないスピードのある大手の研究室ばかりが発表し、逆にユニークだがローカルな研究者の存在感が非常に希薄になってしまっている。非常に良くない状況である。
※	研究不正問題には今後眼をつむるのですか?
※	毎回どこかの分野に偏っているのは流行りなのか、たまたまそうなのか分からないが、今年はミトコンドリアがやけに多
※	耳ざわりの良いトレンドの企画・大型研究費バックボーンのものばかりで魅力が薄かった。
※	テーマが狭すぎると思いました。分子生物学会という多分野のヒトが集まる学会ですので、もっと多くの人が聞きに来るテーマがベターに思います。
※	情報解析系の発表が昨年と比べて減少したように感じた。(特にポスター)
※	医学系が多すぎる。
※	近年は研究テーマが多岐にわたるようになってきているため、テーマが偏るというよりはテーマとして分類するのが難しくなっていると感じた。
※	微生物分野がない
※	神経科学分野が少なく感じました。
※	液液相分離に帰着するテーマが多かった。
※	個体全体を扱うシンポジウムが少なかったような印象があります。
※	毎年同じような座長(いつも出たい人だけ)
※	細胞極性関連が少なかった
※	分子生物学会という名ですが、組織や個体レベルに着目したテーマが多いように感じました。
※	基礎的なものが多い
※	偏っているかどうかは別として、あまり聴きたいと思うものではありませんでした。
※	RNAのテーマが多かったと感じました。

質問5-10. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンラインはリアルタイムだけでなくアーカイブを一定期間閲覧できるようにしてほしい
※	シンポジウムとワークショップの数が多すぎる。整理できると思う。
※	ときどき(マイクが遠く)質問内容が聞こえなかったため、発表者あるいは座長が質問を要約してから質問に回答する形式がよいと思う。
※	オンライン参加です。ライブしかない(オンデマンドがない)ので、職場からの接続で仕事が休めないことで、聞けない時間があったことが残念だった。逆に、現地だと人気があるセッションは部屋がいっぱいになり参加できないものが多かったが、オンラインならしっかりと講演が聞けるので、よかった。
※	口頭発表は特に問題はありませんでした。ポスター発表は、数が多いこともあり、発表者が不在だったりで必ずしも視聴や議論はうまくできていないように感じました。参考まで。
※	マイクを使わない質問者がいる。その質問をマイクでリポートする配慮のない座長がいる。現地でもオンラインでも質疑内容がわからない。
※	今後もハイブリッド開催に賛成である。運営が大変であることはよくわかります。★国内外を問わず、演者や参加者が出張時間・経費の確保をせずに気軽に参加できることは、議論の活性化に寄与すると思われる。★聴講する視点では、数週間程度(演者の許可があるものだけ)オンデマンド配信してもらえると助かる。同時刻に参加したいセッションがあるときにあとでもう一方を聴くことができる。今後の年会のあり方として議論いただければ幸いです。
※	ハイブリッドは時短にもなるので、今後も可能であれば希望したい
※	音量をもう少し大きくしてもらえるとありがたかった。
※	シンポジウムで、発表は英語でやっているのに、質疑応答を日本語でやるならば、初めから発表言語は日本語で良いと思う。発表者にネイティブスピーカーもしくは外国人がいなければ、発表を英語でやる必要がないかも。スライドが英語であれば
※	講演自体は問題ないが、コミュニケーションは圧倒的に現地の人たちととれた。
※	海外からのシンポジストは、目標人数を決めるのではなく、テーマに応じてふさわしい方を国内外問わず招けばそれで良いのでは？
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	質疑は問題なく行えると思うが、オーガナイザーによって差があった
※	オーガナイザーの裁量によるが、オンラインの意見を見る先生と、全く見ない先生がいた。基本、オンラインの質問は後回しになっていた。
※	一般演題からシンポジストを募ることになってましたが、一人もおりませんでした。運営サイドから、もう少し強力に一般演題の方々をプッシュしてほしいです。ポスター見ていると、カテゴリーに入りそうな方が何にかいらっしゃいました。口頭発表は、学生の方でも全く恥ずかしくなく、遠慮は無用であることをお伝えください。
※	現地(会場内)で、現地・オンラインの発表を聞いたが、どちらも違和感なく聞くことができ、とても良かった。
※	オンラインでの発表も会場と一体感をもって視聴することができた。
※	・遠隔で行われた発表で、会場での質問に対して、解答中にネットがフリーズした
※	ポスターに関しては現地開催はオンラインを見る余裕がなく、オンラインで参加したメンバーは現地開催はPDFを眺めているだけ、という感じで分断されてしまった感じがしました。口頭発表は現地・オンラインの参加形態で特に差がないように思
※	事務局の方がzoom権限と現地からの画像配信をハンドルしているせいか、演者が最後の謝辞をしゃべっている途中でzoomを切ってしまったり、座長をしても事務局の方がzoomの権限を持っているため、zoom視聴者からのQAの応答が遅く、タイミングをとるのが難しかった。また演者がしゃべっている途中で切れてしまい、現地側はトラブルと認識できても、オンライン側の演者はそれに気がつかずずっとしゃべっているつもりだったそうです。ハイブリッドのトラブル対応の難しさを感じました。座長席においてあったiPadにはQAしかみえなかったため、zoom権限は座長にも回した方がよいと思いました。
※	オンライン発表の時代では、他の追従を許さないスピード感のある研究室ばかりが発表し、逆にスローでローカルな研究者の存在感が非常に希薄になってしまった。
※	オンライン参加者がどのように質問すればよいのかを説明されない座長の先生や、シンポジウム・ワークショップでの質疑応答のときに時間が余っているにもかかわらずオンラインからの質問をまったく見ない座長の先生方がちらほらいらっしゃる印象を受けました。
※	正直、ハイブリッドではオーガナイザーの能力によってセッションのレベルが変わる。全体的には、うまくできたと思うが、オーガナイザーがダメにしているセッションがあった。
※	単にシンポジウム、ワークショップを聞くだけならばネット配信はとても良いと思いました。
※	会場が満杯で入れないセッションに関しては、オンラインが利用できることで視聴でき助かりました。
※	口頭発表については現地で聞くよりもオンラインで聞く方が音が聞きやすく感じた。
※	オンラインの発表者の通信が不安定であった。
※	現地での質問が優先され、オンラインからの質問はほとんど受け付けられなかったように感じた。
※	やはり、回線が途中で途切れるのがいくつもあったので、オンラインの難しさは思ったが、海外の発表者が気軽に発表できるので、海外の研究者に限っては、このハイブリッド形式を継続したほうが良い。
※	人気の演題にもオンラインで質問できたので良かった。今後も何らかの形でこのようなやりとりをしやすいようにしてほしい。
※	オンサイトの演者にQ and Aが見えないため、「後で回答お願いします」がうまくできなかった。オンサイトの参加者がすべてオンラインでも画面を見れば共有できるが、WiFiや電源の問題があると思った。
※	今年はさすがに難しかったですが、またオンサイトで参加される海外からの参加者が増えれば良いなと思いました。
※	全てオンラインで良い
※	オンライン参加者が会場の様子を見ることができればよかった。
※	オンラインでは、好きな時に質問を投げることが出来るので、便利でした。
※	この1年での経験値の蓄積は大きく、オンラインでの参加もスムーズでした。拝見した限りでは座長の切り盛りもお見事で
※	横浜会場でのシンポジウム参加者が少なく、オーガナイザー(発表無し)が少々困惑気味な表情だったのはかわいそうだった。ただし非常にエキサイティングなシンポジウムだったので感謝したい。またオンライン・現地どちらもメリット・デメリットがあるので、共存してもらえると助かるし、やはりいつかはすべて現地開催に戻ってほしいと改めて思った。
※	会場にいるとオンラインでどれくらいの方が参加しているのかわからなかったため、それぞれのセッションで会場とオンラインでどれくらい参加しているか、座長が報告してくれると、規模がわかっていると良かったです。
※	zoomのチャットやQ&Aを介した質問がスルーされる事が少ないがあった。

質問5-10. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	参加者に実際に医療に携わっている方がどれ位いらっしゃるかわからないが、トランスレーショナルリサーチの分野のセッションがもう少しあっても良いかと思いました。基礎研究の学会ではありますが、社会還元することも国民の期待に応えることになるのみで無く研究者にとっても新たな視点を獲得する機会になるのでは無いかと思っています。
※	英語でのシンポジウムが多すぎた。議論が限られると感じるので、もう少し減らしてかいかげでしょうか。
※	生化学会との重複が多い
※	ハイブリッドでの発表は問題なく進行していると感じたが、質疑応答は改善すべきだと思った。
※	評価できるほど参加できていない。
※	ハイブリッドの場合、座長がオンラインと会場両方に注意を払って、質問をさばく作業が困難にみえたケースがある。
※	会場からの質疑応答が、オンライン視聴者には、表情などリアリティが感じられない問題があると思った。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	同じタイミングで似たワークショップやシンポジウムがある。
※	90分枠はちょっと短いと感じた
※	シンポジウムとワークショップの数が多すぎる。整理できると思う。
※	発表者の人数を絞って選ばれた研究を背景からしっかり聴きたい。一般の口頭発表との違いがあつて欲しい。
※	学会企画やグラント関連企画は、主催側の意図で動かし登壇者だけが満足している印象。学会とは、新しい分野を学びたい意欲でセッション参加する会員も充足感を得られるために、分野の研究背景、科学的知見はもちろん、最新情報を得る場であってほしい。
※	もう少し話題のバリエーションが欲しい。似たような話題は開催日を分散して欲しい。
※	大型プロジェクトの報告会のようなものが多い気がする
※	LLPSについて、統合的に知りたかったが、テーマが乱立していた。このため何をポイントにしているのか、WSごとにもう少し整理して欲しかった。
※	タイトルが端的でないものが多く、主としてどの分野・細目のものであるか分かっておおいと思いましたが。そのために要旨もあるのだと思いますが、それも分かりにくいように感じます。
※	質疑応答の時間が短いものがあつた。長くても良いので、ディスカッションの時間が長いものがあつても良いかと思う。
※	コロナの中で来日する方が少ない中、英語の発表はもっと減らしても良いのではと思った。
※	Q&Aで質問を書くのが難しい。言い直せないのが適切に伝わりにくく、正確に書こうとすると時間がかかってしまう(自分が慣れていないだけかも)
※	テーマは良いが、同時に開催されるセッション数が多いため聞き逃しが生じた
※	参加していないので良く解りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	質疑は問題なく行えると思うが、オーガナイザーによって差があつた
※	ポスター終了後から、ワークショップ開始までの時間が短く、discussionしているワークショップ開始時間に間に合わなかつた。次回は少しポスターフロアでの発表終了後のdiscussion時間に余裕を持たせてほしい。
※	現地(会場内)で、現地・オンラインの発表を聞いたが、どちらも違和感なく聞くことができ、とても良かった。
※	特定の大型研究費と紐づいたセッションは好ましくない
※	RNAなど同じようなセッションが多かつた。もうすこし病態に関係するようなシンポジウムを増やしてほしい。生化学会と連携してほしい。
※	同上
※	オンライン発表の時代では、他の追従を許さないスピード感のある研究室ばかりが発表し、逆にスローでローカルな研究者の存在感が非常に希薄になってしまった。
※	要旨集は配布して欲しいと思います。タイトルと所属だけでも良いので、プログラムを配布して欲しい。
※	オーガナイザーがうまく機能していないワークショップがあつた。もう少し英語スキルの高い人をオーガナイザーとして選出したらどうか。またワークショップのスピーカーの選択はオーガナイザーの采配によるものと思いますが、英語でディスカッションのできない学生ばかりというのは如何なものかと思う。
※	テーマはLLPS、RNA、翻訳制御に関するものは多かつたように感じます。時間は全部90分の方が集中できて良いと思います。オンライン参加者がどのように質問すればよいのかを説明されない座長の先生や、シンポジウム・ワークショップでの質疑応答のときに時間が余っているのにもかかわらずオンラインからの質問をまったく見ない座長の先生方がちらほらいらっしゃる印象を受けました。
※	オンライン発表者からは会場の様子や質問者を見ることができなかつたため苦労したと聞いています。会場を移すカメラも1つ追加すると良いと思います。
※	シンポジウムと同じでオーガナイザーによる。
※	発表時間が12分と短時間でした。演題を減らしてゆっくり話せるほうが伝わりやすいと思います。
※	どうしても会場での質疑応答が中心にならざるを得ないと思いました。ネットは聴講だけでも良いかもしれない。
※	会場が満杯で入れないセッションに関しては、オンラインが利用できることで視聴でき助かりました。
※	同上
※	オンサイト参加者としては普通に質疑を行うことができた。人数が多くなつた場合にオンライン参加になってしまうとオンサイト参加した意義が薄れてしまうので他のセッションに移動した。結果、参加をあきらめたワークショップが多かつた。
※	オーガナイザーとしてオンラインで司会進行をしました(もう1人のオーガナイザーはオンサイト)。大方、問題なく行えましたが、現場の状況が分からないまま司会をするのがちょっと難しかつたです。会場を映すPCを1台おき、それもzoomに入ってくれば、会場の様子を遠目ながらも掴むことができるので良いと思いました。
※	オンラインの発表者の通信が不安定であつた。
※	前項目と同様
※	やはり、回線が途中で途切れるのがいくつもあつたので、オンラインの難しさを思ったが、海外の発表者が気軽に発表できるので、海外の研究者に限っては、このハイブリッド形式を継続したほうが良い。
※	オンライン発表では、質問者の顔が見えず答え難かつた。
※	オンライン参加の場合、こちらの音声や画面のコントロールをどこで調節するのかわからなかつた。そのため、手をあげて発言することもためられた(チャットに質問を書いた)。
※	過去の研究の流れを紹介する演題が多かつたように感じる。1演題の時間はもう少し短くて良いので、最新の知見を集めたワークショップも開催してほしい。
※	シンポジウムとワークショップのテーマやセッション数を決めるのは、現在の研究状況から適切に決めるのは難しく思う。オーガナイザーを募る枠と執行委員が決めるテーマの枠の割合がどのくらいに設定するのが良いのか分からないが、1:3だといつも決まった枠のテーマの発表になり、3:1であると雑多な印象を受けて聞きに行きたいテーマが分散するような感を
※	微生物分野が少ない
※	現地での質問よりもオンラインでの質問を優先する司会者がいたが、オンラインでの質問より現地での質問を優先してほしい。
※	もう少し、理論系、計算系のセッションがあつても良いのではないか。
※	扱っている内容が重複しているように見えるセッションがいくつかあり、統合すると良いように思いました。あるいはセッションの色をもっと明確に打ち出す必要があると思います。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	全てオンラインで良い
※	オンライン参加者が会場の様子を見ることができればよかった。
※	オンラインでは、好きな時に質問を投げることが出来るので、便利でした。
※	ワークショップが非常に多いのにも関わらず、進行中演題の案内表示が個別の部屋にしかなく、全体の見通しが悪かった。部屋割りの情報もPDFしかなく、ポータブルデバイスで見ると不都合で不親切だった。
※	数が多すぎて、領域によっては同じようなオーガナイザーが毎年のように出ているような印象があります。
※	全体に1つのワークショップの中に組み込まれる演題数が多すぎるため、早口になりフォローが困難であった。
※	テーマがよく似たワークショップとシンポジウムが同じ時間に行われていたので、聞きたいものが聞けずに残念だった。
※	聴きたいワークショップが重複していたため、オンデマンドがあるとよかった。
※	特にオンラインで視聴する際1セッション135分は長すぎると思います。人間の集中力の持続時間を考えると90分くらいにしたほうが良いと思います。
※	zoomのチャットやQ&Aを介した質問がスルーされる事が少ないがあった。
※	英語でのシンポジウムが多すぎた。議論が限られると感じるので、もう少し減らしていかかがでしょうか。また、演者によっては、声が小さすぎて、英語が聞き取れないこともしばしばあった。適宜、マイク音量を上げるなどの対応が欲しかった。
※	生化学会との重複が多い
※	90分枠は短いと感じた。ディスカッションまで含めると余裕がなかった。
※	オーガナイザーを務めました。質疑応答について、会場側のカメラがなく、フロアからの質問がオンラインでは状況がわかりにくいとの指摘をいただきました。また、多くのワークショップで時間を超過していたと思います。時間配分は余裕を持って組んだ方が良くと思いました。
※	iPS細胞等を利用した再生、分化、病態解明等に関するテーマがあってもよいのではないかと。
※	ハイブリッドでの発表は問題なく進行していると感じたが、質疑応答は改善すべきだと思った。
※	評価できるほど参加できていない。
※	セッションタイトルとかなり内容がおおきくなっているワークショップがある。(演題がひとつづらならまだしも、半数がそのような状況なのはいかがなものか)
※	オンラインでの質問をちゃんと拾って後になってもいいので解答してほしい。また、解答するとのことだったセッションを一度抜けて別のセッションに戻り、zoomで再度最初のセッションに入ると質疑応答が全て消えていて見られなかった。録画を配信して欲しかった
※	会場からの質疑応答が、オンライン視聴者には、表情などリアリティが感じられない問題があると思った。
※	学生さんと思いき方が頑張って英語で発表していましたが、質疑応答まで英語では難しそうだったので、日本語でのやり取りを提案して議論しました。この程度の融通はアリとして柔軟に対応しつつ、英語化を浸透していけばよいだろうと思います
※	ワークショップの数は多過ぎると思います。そのため、相互に関係しそうなワークショップが同時帯に重なってしまい、どちらかを切り捨てるという選択を迫られました。これは、ユニークな企画が多いことの現れでもあります。どこで線を引くか、バランスを取るのが難しいところです。また、旅程の都合で早めに帰られる参加者が多いため、最終日の夕方のセッションへの現地参加が少なくなったのではないかと思います。そうするとどうしても会場のテンションが下がってしまい、演者の発表も質疑応答も勢いを失ってしまうようです。ワークショップの数と合わせて、この点についてもプログラム編成を見

質問7. ポスターディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ディスカッサーがポスター発表時間にこなかった。そもそもくるものなのかわからなかった。
※	時間の配分がどのようにされているのか不明。オンラインだと全体が見えないのでポスターの現地とオンラインの混在はあまりうまくいかないように思う。
※	後で閲覧出来るように欲しい
※	ポスターディスカッサー制について理解していない
※	ディスカッサーによる関わりの差が大きいように思った。質疑応答を盛り上げて欲しい。その意味で、教授など座長を何度も経験した方だけでなく、助教クラスなどセッションリーダー経験の若い方を優先的にディスカッサーに置いて、ディスカッサーも担当発表について予習してのぞむような、両者がしっかり準備すれば、ディスカッサーが今より機能するかもしれない
※	意見交換会場のアナウンスが十分でなく(パッと見、全体の意見交換の場に見える)、ほとんど機能していなかった。名称を変えるか事前に詳細な説明が必要だったと思います。(当日ライブチャットで質問対応できるくらいしか説明なかった)
※	誰も来ませんでした。
※	ディスカッサーが設定されていたようですが、誰も来ませんでした。
※	オンラインで発表したが、ディスカッサーの存在がどれほど議論を活発にしていたのかが全く分からず、少なくともオンラインでの参加では存在意義がないように思えた。
※	現地からオンラインへの切り替えが遅かったせいか、オンライン発表にディスカッサーが現れなかった。
※	ディスカッサーについて十分周知されてなかった気がする
※	ディスカッサー制がよく理解できていなかった
※	例年、口頭発表演題のポスターに人垣ができ、それ以外はスカスカな傾向が見られて正直嫌でしたが、今回の試みは大変よかったです。
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	ディスカッサーは若手がいい
※	ディスカッサーは、ほぼオンラインの人は相手にしていないようだった。
※	ポスターディスカッサーがいたのかよくわからない。
※	ディスカッサーの方々がworkしているように見られなかった。今後はもう少しディスカッサーとしての役を果たせる方々を選ぶ努力が必要かもしれません。
※	意見交換場は、入りにくいと感じる人もいるようで、ディスカッサーが必ず一度は訪れることは良かったと思う。ただ、時間が結構限られているので、ディスカッサーも全員を回るのは難しかったのではないかと。
※	ディスカッサーがいらした形跡がないので、わかりません。いないも同然でした。
※	ディスカッサーごとに、参加する演題を決める根拠が異なっているようにも感じた(議論が盛り上がっているポスターに参加したディスカッサーもいた)が、結果的には有意義な議論につながり、とても良かったと思う。今後も、議論の盛り上がりの有無に関係なく、ディスカッサーの方には積極的に議論に加わって頂きたい。
※	シンプルに、ディスカッサー無しでポスター発表で構わないと思います。
※	ディスカッサーが来なかった
※	ディスカッサーが、オンラインでは来なかった。どうなっていたのか？
※	若い学生たちが生き生きとポスターの説明をしている姿が多く見られました。現地開催、対面発表のよさを感じてみたいと思いましたが、ディスカッサーとかがいなくていいと思う。現地開催、対面発表のよさを感じてみたいと思いましたが、ディスカッサーとかがいなくていいと思う。
※	何度も繰り返し意見を申し上げているが、ディスカッサーとかいうよくわからない和製英語を作ってまでやる意義のある制度ではない。そもそも今回オンラインポスターは1人も訪問者が来ないポスターが自分が共著のもので少なくとも、そういったハイブリッドのデメリットを救うことさえできない制度ならやる必要がない。
※	ディスカッサー、いましたか？
※	ポスター発表をしておらず、ディスカッサーでもなかったので行われていることすら知らなかった
※	ディスカッサーが担当演題を回っていたか不明。発表者がオンラインの場合はどうしていたのか？
※	数人の学生に聞いてみましたが、ポスターにディスカッサーが来ることはなかったとのこと。ポスターを選んでいるのでしょうか？
※	誰がディスカッサーか分からなかった。
※	ディスカッサーは適材な人を配置しないと、よくわかってない専門外の人が無理に質問してもかえってしらける感があるとありました。
※	時間が限られているときにはディスカッサーが邪魔。
※	ポスターを会期中公開するのはとても良いと思いました。
※	ディスカッサーは来なかった。
※	ディスカッサーを見かけなかった。
※	これについては、どのやり方が良いのかは答えはないと思います。ただ、本来は自由に立っている人に話聞いて討論できるのが望ましいのですが、それも怪しいところがあるので、ある程度こういう場を設けるのは、意味があるかと思っています。
※	ディスカッサーが機能していたとは全く思えなかった。(オンライン)
※	ポスターディスカッサー制があった事にすら気が付かなかった。
※	ほとんどのスライドが盛況で、discussorとしてすることがなかった。これでいいと思う。
※	ディスカッサーがきたのかどうかよくわからなかった
※	今年はディスカッサーがいたのかどうか、よくわからなかった。
※	実際にディスカッサーを担当して感じましたが、ポスター発表で発表を話す機会が無い発表者をゼロにするため、また、議論や聴衆を盛り上げるためにディスカッサーを配置することは良い対応だと思いました。
※	興味のあるポスターの発表者に質問できる時間が制約されるため、自由討論の方が良いと思う
※	ディスカッサー形式は必要ないと思う。
※	自分もディスカッサーだったが、自分自身が演者に話しかけるきっかけにもなり、なかなかよかった。
※	オンラインではポスターセッションが全体に不活発で、ディスカッサー1人で時間内に担当ポスター全体を回ることはできなかった。申し訳ない。
※	大会のHPIにおいて、一般参加者や一般発表者に対してディスカッサーの記載がなく、
※	ディスカッサーが来てくださることがどこに書かれているのかわからなかった。周知の方法を考慮したほうが良いと思った。
※	オンサイトで発表したためか、ディスカッサーの存在に気がつかなかった。



質問7. ポスターディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンラインポスター発表では聴衆が一人もおらず、少なくともディスカッサーは来るかと思っていたが、結局来なかった。ディスカッサー制の意味がないと感じた。
※	Late breaking abstractにディスカッサーが居ないことに関して選択肢が設けられていないのが不満である
※	ディスカッサー制はとてもよい取組みだと思いますが、漏れなく回っていますか？あまりその活動が見えません。
※	ディスカッサーから専門性の高い質問、アドバイスを受けることができ大変勉強になった。ディスカッサー制度は、カジュアルな雰囲気でもやり取りできるポスター発表ならではの利点が最大限生かされていると思った。今後もディスカッサーの先生のご都合がつけば続けて欲しい。
※	ディスカッサーに出会わなかったのが意義がわからなかった。オンラインとオンサイト、両方のディスカッサーをしていたのだろうか？なるべく全演題を回るのが理想だが、実際には人気の有無が顕著なので、お客が少ない演題のみ回るのが現実だと思う。特に若手発表者に対してはディスカッサーが付くといいい経験になるのではないか。
※	特にディスカッサーに出会わず、機能していたのかわかりません。
※	ポスターディスカッサー制があったことを知らなかった。当日も気がつかなかった。このアンケートで初めて知った。
※	ポスターディスカッサーがもう少し頑張った方が良いと思われる、特定のクッションが存在した(不在?)。
※	存在にまったく気づきませんでした。10時から17時半までポスター発表していましたが、わかりませんでした。お客様が優先でありますように。
※	オンラインだとディスカッサーがいたことも分からない
※	オンラインで見てたので、非該当
※	ディスカッサーを担当したが、例年以上にポスター会場が盛り上がり、あまりディスカッサーとしての仕事が無かつ
※	今回ディスカッサー制の説明が不足していたと思われます。
※	ポスター発表で、多くの人と議論できたことは満足であった。しかし、誰がディスカッサーだったのかわからなかったので、何とも言えない。もしかしたら、ディスカッサーさんのおかげで議論が盛り上がったのかもしれない。
※	いらっしゃるのか分からなかった。
※	双方にとって必要ないと思う。
※	「ディスカッサー」なんていましたっけ？私の現地発表には現れませんでした...。
※	判定不能。
※	来なかった。
※	ディスカッサーがいたことがわからなかった。
※	うまく機能しているとは思えなかった。今後はいらないのではないか。
※	ディスカッサーは本当にいたのでしょうか。私のポスターには来ませんでした。
※	Web発表の場合のディスカッサーがどのようになっていたのかは、わかりませんでした。
※	特にオンラインでのポスター発表は、訪問者が非常に少なかったという意見を伺いました。少なくともディスカッサーと議論することは、若手発表者に有益であると思います。
※	ディスカッサーとして参加しました。ほとんどの演題は助けがなくても盛り上がりつつありますが、1人、人が集まっていないポスターがあったので、ディスカッサー制度があつて良かったと思いました。特に初めての学会・初めての発表の学生だったので、研究内容だけでなく発表方法などのアドバイスもできたのでよかったです。
※	ポスターディスカッサー制があつたことに気が付かなかつた。
※	存在していることを知らなかった
※	ディスカッサーがポスターに来なかつたように思います。
※	今回、ポスターディスカッサー制？だったのですか？
※	盛り上がりおらず、ディスカッサーが来ていないように見受けられる演題があつた
※	時間の許す限りポスターを見て回りましたが、足を止めた発表でディスカッサーとは全く遭遇しませんでした。話をしている途中で時間だからとディスカッサーが割り込んできたり、自分が動ける時間にディスカッサーが陣取っていて結局聴けなかつたりしたことがあります。かたやディスカッサーとなった場合には、ある程度の時間を喰われるため自分の興味のある演題に辿り着くことができなくなったりします。演題の内容により訪問者の数に差が出るのは仕方がないことであり、またディスカッサーの力量によっては全く議論が盛り上がりませんこともあるので、全く無駄な配慮だと感じています。
※	ディスカッサーの方が回るところに出会わなかつた。この学会に関しては必要ないと感じている。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンラインの参加があるため、奇数のポスターが並んでいたりした。これによってすごく人が集まって見にくくなった。ポスターの並びに法則性が余りなく、見づらいと感じた。
※	ポスターでは、オンサイトとオンラインの間での会話が難しいと感じた。また、ポスター発表のときのPC画面が扱いにくい。ポインターが映るような設定が欲しい。
※	アップロードしたポスターの解像度が悪い。
※	オンラインのポスターの一部で、解像度が不足しており文字が潰れているものが見受けられました。判読困難であったのが残念に思いました。
※	操作性が悪く、またサイトも重くて使いづらかった。
※	オンラインで、ポスターが発表日以外にも見られることで、十分時間をかけて見ることができる点は良い。しかし、データの漏洩等への配慮がないと感じた。オンサイトでも禁止していても写真を撮る人はいるが、オンラインではもっと危険で、未発表データなどは出せない。重いデータなのか、特定のポスターを閲覧しようとするとフリーズしてサイト自体が動かなくなった。タイムテーブルが見にくい。
※	オンサイト参加しましたが、オンラインのポスターは見れませんでした。おそらくその逆もあったと想像します、今後の課題かと思いました。
※	見てくれている人はいるものの(viewが複数人いる)、交流会に参加して下さる方は少なかったため、現地発表の方が気軽に話ができると思いました。
※	オンラインのみであまり時間が取れず、ポスターまで見えなかった。
※	オンサイト会場に行けば、すべての発表が見られるかと思いき、向かったがオンライン発表のものは見られず、ガッカリした。
※	意見交換会場のアナウンスが十分でなく(バツと見、全体の意見交換の場に見える)、ほとんど機能していなかった。名称を変えるか事前に詳細な説明が必要だったと思います。(当日ライブチャットで質問対応できるくらいしか説明なかった)
※	オンラインだと、質疑応答が盛り上がらない。これは今回のポスターのやり方だと思う。参加人数が多いのはわかるがオンラインのポスターのやり方を検討した方がいい。ハイブリッドで行うのであれば、ポスターはZoomなどを使用した方が良かったと個人的に思う。
※	オンラインでの画質が荒く、拡大しても見にくいポスターがありました。もう少し改善していただけると非常にうれしいです。
※	オンラインで目的のポスターを探すのが難しかった。PDFのポスター発表者の一覧表が発表者の名前のみ記載されていたため、どこの研究室の発表かわからないことが多かった。
※	オンサイトは例年のように行われたとは思いますがそれに終始し、オンラインは結局何も出来ていなかったと思う。pdfファイルでポスターをサイトに添付することになっていますが、それを覗きに来る人は多いのに、コメントを落とさない限り履歴が残らないので、情報だけ取られている不安に駆られます。自分の発表が終わったら直ぐにpdfファイルを見れないようにすることができるようになって欲しいですし、システムについてのアナウンスが足りないと思います。
※	職場にいながら、事前にポスター発表が見れたので、よかった。
※	オンラインの参加の場合、現地ではどのような表示のされ方になっているのか分からず、現地との温度差を感じた。オンサイトでの参加者が多かったためか、オンラインでポスターに訪れてくれる人が少ないように感じた。オンサイトよりも不利のように思われ、こんなことなら横浜に行けばよかったと思った。ハイブリット開催の難しい点かもしれないが、今後ハイブリット開催する時にはどうにかしてほしい。
※	オンサイトのポスター発表者がデータをアップデートしていない場合が多く、オンラインでの参加に不満がある。
※	オンラインからだと現地発表者とのリアルタイムの質疑応答ができない欠点があると思った。
※	オンラインのポスターは見えていません。
※	ポスターをオンサイトとオンラインの両方に対応するのは難しい
※	オンラインでも、オンサイトの発表者との議論の場を設けてほしい。
※	ディスカッションがあまりよく理解できなかった。周知が足りない気がした。検索した演題に直接行けなかった気がするので、そこが不便だった。
※	ハイブリッドのポスター発表は、オンサイトが優先されるのでオンラインでのコミュニケーションが取りにくい。
※	参加していないので良く解りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	オンサイトで参加すると、オンラインのポスター発表を見るのができなかった。
※	今回の分子生物学会の方式ではオンラインとオンサイトの両立が難しい(ポスターのみ)
※	自分はオンラインで参加したのだが、オンサイトのポスターは見るだけで直接会話ができず、またオンラインのポスターの数はとても少なく見るポスターがなかった。
※	オンラインポスターもオンサイトに張り出してほしい。
※	オンラインのポスター発表者とオンサイトのポスター発表者・閲覧者の交流がほとんどなかったのが残念だった。オンラインポスター参加者のために、それぞれの時間を分けるなど、もう少し工夫があっても良いと思った。
※	例年よりポスター数が少なかったせいか、スペースに十分な余裕があったのがよかった。
※	横浜会場で自分のポスターを発表したり、他の現地ポスターの演者とディスカッションをしているうちにセッションの時間が終わってしまい、オンラインのポスターセッションに参加する時間がまったく確保できなかった。可能であれば、現地とオンラインのポスターセッションの時間帯をずらしてほしい。
※	オンサイトとオンラインを同時に見るのは難しい。オンラインでは時間外にポスターを掲示していないものがそこそこあり、オンラインのメリットが感じられなかった。
※	オンサイトでのポスター発表は良かったが、人が密になっているのではないかと心配だった。
※	オンラインでのポスター閲覧が非常に画質が悪く、グラフや図の文字が見えないものが多かった。
※	ハイブリッドの発表形式は、再考して欲しいです。現地参加だとオンライン発表を聞く時間の確保が難しい。どうしてもハイブリット開催にこだわるのなら、例えば、ポスターのオンライン発表時間帯と現地発表時間帯を分割出来ないでしょうか？
※	ポスターを見るwebシステムは良いと思います。オンライン発表で複数ページのポスターにしましたが、これで良かったのか？オンサイトの発表者のようなポスターを作った方がよかったのか？と思いました。ディスカッションのスペースの使い方も、案内は分かりにくかったと思います。(オール向け、発表時間後に入れという案内しかなかったのでは？)ポスター発表はオンラインでは難しいです。
※	オンサイトのポスター会場は、隣り合ったポスターとの間隔をもっととるべきであったと思う。ポスター前の混雑度はコロナ禍前と変わらなかった。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ハイブリッドでの大会運営は大変努力され、また、大変運が良かったこともあり、オンサイトで久しぶりの参加は楽しめたが、その分オンラインはおきざりになっており、特にオンラインポスターの扱いは酷かった。そもそもシステムからポスターの一覧からどれがオンラインでどれがオンサイトかわかりにくく、オンサイトと違いオンラインのポスター発表の閑散ぶりは今回のオンラインのポスターセッションは割合も少なくディスカッションもしにくい形式だったと思う。ポスターセッションに限ってはどちらかに限定するべきと考える。日ごと、時間ごとでオンラインとオンサイトの発表時間を分けたらまだやりやす盛り上がらないし、プレゼンターがいないケースが多い。
※	・現地参加しないポスター発表は、実際上ほとんどフィードバックが得られない・急遽、現地に共著者がポスターを掲示したが、掲示場所が最後尾になり、訪問者が少ない印象であった
※	ポスター発表中、オンラインで視聴している人にも対応しようとしたができなかった。
※	オンラインでポスター発表を見ていたが、オンサイトの発表者がオンラインに参加していないので、リアルタイムの質問はできなかった。
※	オンサイトの質疑応答は盛り上がっていたが、オンラインでは質疑応答がほほないものが多かった。同時進行では、熱心な質問者はオンサイトにいるような印象がある。ポスターをハイブリッドでやるのは、良いと思えない。
※	分生のような大きな学会では、会場でのポスター供覧が必須であると感じた。オンラインでは同じ早さで情報をチェックしきれない。
※	現地にきてしまうと、現地からパソコン出してまであえてオンラインのポスターをみようという感じになれないので、ポスターは現地のみでよいと思った。
※	オンラインのポスターセッションは本当にダメだ。本屋で本を買うこととネットで本を買うことの違いに匹敵する。見たい発表しか見なくなってしまう、ワクワクするようなポスターやプレゼンターとの偶然の出会いが全く無い。
※	偶奇番号でスピーカーが入れ替わるはずがそれが守られていないため、非常に狭い場所で発表しなければならず、感染対策という意味ではよくなかった。また、会場に居ながらオンラインで他の発表を聞く時間はなく、ハイブリッドはうまく機能していたとは言い難かった。オンラインで質問したが、返信がないものもあった。
※	2年ぶりのオンサイトポスター発表は活気があってよかった。一方で、ポスター発表をハイブリッド形式で行うことの難しさも感じた。実質的にはオンサイト(オンライン)参加者はオンサイト(オンライン)のポスター発表だけを見ることになってしまい、オンサイト組とオンライン組が別の学会に参加しているような感覚になっていた。オンサイトとオンラインでは発表時間を分けるなど、もうひと工夫必要かもしれません。
※	オンラインの人もポスターだけ現地に貼るようにしてほしい
※	オンサイトのポスター発表とオンラインのポスター発表は事実上分断されていたと思う。
※	本来、ポスター発表は、少なくとも演者として立っている時間に、自由な討論ができるころにあると思います。しかしながら実際に体験したことを書きますと、そもそもポスターの説明を嫌がる人がいるので、そのような態度には違和感を感じる(たぶん、これは所属研究室の指導の問題もあると思う)。もしそうであるならば、演題などを出さなければ良いと思うが、いか
※	オンサイトとオンラインのポスター発表が全く別物になっており、それぞれの交流がまったくなかった。オンライン参加者は人数が少なく、誰も聞きに来ていないポスターが結構あっていられなかった。オンラインのツールも使いにくく、とても重く、ポスターをざざっと見るという機能がなかったのが残念だった。既にアップロードしたポスター画像を見ながら発表をしたり発表を聞くのは難しいと感じた。zoomで画像をシェアしたほうがポイントで指したりできるので便利だと思う。さらに、検索システムがイマイチで、タイトルと発表者名でしか検索できなかったのは残念だった(アブストも検索対象にいれてほし
※	オンラインとオンサイトを完全に断絶しており、同じ時間帯に開催する意義があるのか疑問に思った。
※	オンサイトで参加していると、オンラインのポスター発表にリアルタイムで参加できなかったことが残念だった。オンラインでは、ポスターの読み込み速度が遅いor解像度が悪く、オンラインのポスター閲覧ではストレスが溜まった。
※	現地参加の場合、オンラインのポスターを見る余裕はほとんど無い。来年にはコロナが収束して、今年だけのイレギュラーな形式と信じたい。
※	ポスター一件数が例年より少ないのだから、密集を避けるためにも、もっと間隔を空けて配置すべきだった。またリモート発表のポスターでディスカッションに参加するのが面倒。PCを広げる場所も少なく、会場にいる人には、非常に参加しづらかった
※	オンサイトで参加している場合、オンラインをチェックする気にならない。基本、オンサイトがいい。
※	オンラインとオフラインのポスター発表が完全に分断されてしまって、ポスターに関して言えば両方選択できる状況はあまり良くなかったように思った。口頭発表は両立できていたように思うが、ポスター発表の形式はかなり不満だった。
※	ポスター発表はハイブリッドでは完全に成立しないことが分かりました。オンサイト⇄オンサイト、オンライン⇄オンラインのみのやり取りであったと思います。
※	オンサイトでポスターを見て、説明してもらったり議論していると、オンラインでのポスター発表に直接参加することが出来ず、かなり残念である。
※	オンサイト(会場)に参加している場合、オンラインポスターを見る時間は無いです。また、オンサイト会場のネットワーク接続はかなり悪かったです。
※	広い会場を使用しているのだから、掲示をもっと間隔を空けたほうが良いと思った。ディスカッション中は例年の密な状態のままであった。
※	ハイブリッド形式では現地でのポスター発表時にウェブからオンタイムで質問がしにくい(演者が現地で発表しているため)。ウェブでの視聴とポスターでの発表(特に一時間など長時間の発表時間設定)は難しいのではないかと。ポスターをやめて短い時間のトーク形式にしたほうが良い気がした。
※	オンラインでは気軽にディスカッションすることができなかった。ハイブリッド開催の場合でもポスター発表は全てオンラインに統一した方が盛り上がると思う。
※	ポスター会場でのネット環境が良くないこともあり、ポスター発表しながらオンラインからの反応を見ているのは不可能だった
※	オンラインでの質問がやりやすかった。Remoを使ったポスター発表だと、オンラインでディスカッションしやすいと思います。
※	オンラインがあることで、ポスターの内容をじっくり見ることが可能となる点良かった。
※	ポスター発表者同士の間隔が狭く、聴衆がかなり密な状態になっていた。ポスター板の配置をもう少し離すなどの配慮があると良い気がした。
※	開催者側の問題ではありませんが、オンラインのポスター発表の資料が非常に見づらいものが多かったと感じました。
※	オンサイト参加者からするとオンラインポスターはいないも同然だと感じた。オンライン発表者はディスカッサーが来なかった人もいと聞き、暇だったのではないかと感じる。
※	ポスター発表者として、Wifiに接続できず、オンラインの質問を受けることができなかったのが良くなかった。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンラインの場合、あらかじめ各発表者に5分程度の説明動画(mp4などで)とポスター(PDFなどで)をアップロードしてもらい、それをオンライン参加者が視聴する方がスムーズだと思います。そして、それに対してコメントなり質問を随時書ける場所があれば、双方向的な議論ができると思います。
※	オンライン用のインターフェイスが使いにくくポスターが見づらかった
※	オンサイトだとオンラインのポスターを見るのが難しかった。
※	ポスターをアップロードしたが、システムが重かった。元のPDFの解像度は良いのに、システムにあげるときれいにみえず、どうすればよいのかわからなかった。
※	オンサイトについて: 抜け番が出るのはやむをえないが奇数・偶数でわけているせいで隣り合うポスター両方で発表するのは感染対策の意味からもいただけないのでは。オンラインについて: コメントでの質疑が回答に再度リプライができないようになっていて非常に使いづらかった。また、意見交流場は使用している人が少ないようであり意味を感じなかった。
※	リアル学会をよくぞやってくれました。運営された皆様にただ感謝しかありません。やっぱりポスターを前にして議論すると話の盛り上がり全然違います。
※	誰も来てくれず、隣のポスターの人に営業して来てもらった。初日は発表者だけでなく参加者のほとんどがサイトの使い方をわかっておらず、見には来てくれるものの、交流場へ入ってくれないので活発な議論ができなかった。運営側の事前周知が足りなかったように思う。また、オンラインの人が現地の発表を聞けないというのも事前に知って、不公平感があつた。ポスター発表の場合も去年と同じくzoomが良かった。
※	視聴サイトONLINE CONFでは、画面共有ができない、pdfの解像度が低い、重い、などの理由から、オンラインポスター討論の環境は非常に悪かった。また、ハイブリッドの場合、オンラインでは現地のポスター発表は聞けないので、現地発表の人は動画をアップロードした方がよいと思った。動画を公開していた人は少なかったと思う。
※	オンラインのポスター発表にたどり着くのが難しい。従前の分子生物学会であれば演題検索アプリなどが用意されていたものが今年はなくなくなり、改悪と考えられた。また、オンラインのポスター発表者と意見を交わすのも不便を感じた
※	ポスター発表の良さは、ポスターの前でFace-to-Faceの議論ができるという点だと思うので、ポスターセッションは現地での発表を基本とした方がよいと感じました。
※	ポスター発表はよかったし、個々のポスターについては、ドームのような広い会場独特の雑音がなく集中してディスカッションができました。ただ、プログラムが重く、すぐ見にくかったです。タイトル一覧だけでも、印刷したものがあるとよい
※	毎年発表時間が重なるポスター(=全体の1/2)は発表を見られないのですが、もう少し多くのポスター発表を聞けるようにならないでしょうか?
※	オンサイトで参加した場合、オンラインポスターを見る事は不可能では無いかもしれないが、時間的にもかなり困難であると感じた。私はオンラインのポスターは見なかった。
※	オンサイトで見ようとするとオンラインの演題があるのが困った。オンサイトでオンラインのポスターを見るのが難しかった。WiFiが弱く電源がない。本体は持ち込みで良いが、インフラはもっと整えないと両方の演題を見る事ができない。
※	オンラインとオンサイトの両方の参加が難しい。予算の関係もあるかと思うが、オンラインのwebサイトが非常に使いにくかった。またオンラインのポスターの画面共有がないことも良くなかった。
※	オンサイトでのポスター発表は、偶数・奇数で発表時間が分けてあることが周知されていなかったのか、時間に関係なく発表している方が多く、そのため非常に混雑してしまい、議論がしにくいことがありました。
※	オンラインで参加して、オンラインでポスター発表したが、現地発表の人と全く交流できなかった。
※	現地参加していると、オンラインでのポスター発表をいつ聴けばよいのかわからなかった。
※	・ポスター発表のハイブリッド形式は難しいと感じた。現地発表会場にいながら発表時間中にオンライン発表サイトにアクセスすることは実質難しかった。・オンライン発表演題の掲示場所がスキップされたことで、偶数あるいは奇数番号のポスターが並んだ場所が多く、同じ時間帯に並んで発表をすることになり、ポスター前が混雑して密になりがちだった。発表者も隣を意識しながらの発表でやりにくかった。
※	オンラインのポスターには参加できなかった。オンサイトで参加している場合は、オンラインポスターに参加するのは難しいかもしれない。
※	端っこに当たりますが、ポスターの列に微妙に角度がつけてあり、認識されやすくなっていました。多くのお客様に来ていただけました、ありがとうございました。
※	不参加
※	オンサイトで、オンラインのポスターが見れると良いと思いました。
※	オンサイトとオンラインの討論の時間帯をずらした方がよい
※	ZOOMが良い今回のオンライン形式は不便
※	オンサイトのポスターは、間隔が空いているところと密のところがあった。均等にすることはできませんか。
※	オンサイトとオンラインを同時に開催したため、現地参加者はオンラインポスター発表に満足に参加できなかった。オンライン発表者とオンサイト発表者が通し番号で割り振られたため、オンサイト発表では偶数または奇数番号のポスターが連続して並ぶ状況が多く見られた。ただでさえ、ポスターサイズ(幅)が狭くなっている上に、隣り合っている発表者が同時に発表を行ったため、大変発表し辛かったし、非常に密になっており、感染症対策の面からも最悪であった。また、会場では(発表者は覗いて)パシフィコのフリーWi-Fiがなく、オンラインプログラムへ満足に安心して参加することができなかつ
※	オンラインだと発表者とのやり取りはできず、サイトのUIも酷すぎて最悪でした
※	「ハイブリッドでのポスター発表はよくなかった」オンラインで参加したので、オンサイトの発表に対して、肉声での質疑応答ができませんでした。オンサイトの発表が多かったので、「肉声での質疑応答」ができる演題が限られ、オンラインは不利だと感じました。
※	オンラインでもポスターが見ることができたので、あとで、見辛かった部分を拡大して見ることができ良かった。
※	奇数同時、偶数同士が隣り合わせになっていたため、隣のポスターとの間隔がいつも以上に狭かったように思います。
※	オンラインでのポスター発表で、メッセージへの応答に時間を要した。十分に考えてから返信できる利点があるが、現地参加の方が双方向の情報交換の効率がはるかに良いと思った。
※	オンサイトのポスターとオンラインのポスターを平行してみると難しいので、事実上、同じ時間帯に開催された別の学会という形になってしまっていて残念だった。
※	密になる状況が多かったため、ポスターの間隔をあげると安全上よい。
※	オンラインでポスター発表者に質問できなかった。オンラインでポスター内容が見えなかった。
※	オンサイト参加したので、オンラインでのポスターは、結局見ていない。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	(1)オンライン発表を選択した人の番号がスキップされていたので、奇数と奇数が並んで相当に混みあっている場所があった点は次回以降検討が必要そう。(2)ポスター-jpgが粗い画像で全く楽しめなかったのも、スクショ対策との兼ね合いを議論してほしい。(3)ポスタータイトルをクリックし、ポスター-jpgをクリックし、要旨PDFを見て、ポスター拡大ボタンを押して、といったように、オンラインポスターは相当に面倒なので、ポスター閲覧技術が今後発展することを期待したい。
※	現地で参加しているとオンラインでのポスターにはまったく参加できませんでした。オンラインサイトが使いにくかったのと、会場のWifiが重く、オンラインのポスターはみるのを諦めました。また現地で話をしている場合、オンラインで参加する方の交流会場にはいけません。富澤の記念ポスターはいつがコアタイムなのか周知がなく、やりにくかった。会場ではオンラインのポスターが抜けていたので、同じ時間帯のポスターが隣同士になっている場合もあり、狭かった。
※	オンラインポスターは見る機会がなかった
※	横浜会場でのポスター発表に関してオンラインの番号が飛んでいたため、奇数または偶数同士が隣になっているところが狭く、ポスターが見にくいかった。オンラインとオンサイトで番号を分けた方が良かったと感じた。
※	オンラインでのポスターの表示画面が小さく、見にくい。大きさを自由に變化させられた方がよい。(シ)スプレイの大きさや見やすさの基準はヒトによって異なる。
※	オンサイトとオンラインの併用は無理があると感じた。現地発表参加だったので、極めて関心が高い演題で無い限り、オンラインの発表を聴くのは物理的にも厳しいと感じた(個別のPC設置スペースなどがあれば別かも知れませんが)。
※	オンラインのみでポスター発表をしていたが、現地が盛況なのか、オンラインでの閲覧はほぼなかった。あと、ディスカッサーが来るのかと違って待機していたが、来ませんでした。
※	2020年度はオンライン参加者は多かったで、ポスター発表の時、見に来た方やディスカッションして頂いた方は数人いましたが、今年は現地参加の方は多かったで、オンラインでディスカッションにしてくる方はいなかったです。みんなはほとんど現地に行っているの、仕方がないと思いますが、なんかもっといい案があれば良いと思います。オンライ参加システムはとても便利で、助かりました。心より感謝申し上げます。
※	Wi-Fiの貸し出しがあったが、オンラインに対応している暇はなかった。現在のシステムでは、ポスター発表でハイブリッドに対応するのはかなり難しいのではないかと。
※	オンサイトのポスターに人が集まっていたらしく、オンラインのポスターまで対応できなかったとオンサイトの知人から聞きました。また、スマートフォンやタブレット端末がオンラインに対応していなくて、議論ができなかった参加者が数名いて、せっかくポスターを訪れてくれたのに大変残念でした。ONLINE CONFの欠陥だと思います。次回は別の視聴システムに変えてください。他のシステムではこのような欠陥を経験したことはありません。
※	ポスター発表時間内では、オンサイト参加者とオンライン参加者はポスター発表での交流がほぼできなかったのは課題で
※	オンサイトの改善点としては、会場にポスター発表分野のマップが示されていると、興味のある分野について、周りやすかったと思います。オンラインは、訪問者が少ないことが問題かと思えます。
※	現地とオンラインのポスター参加者は、ほとんど交流がなく、あたかも別々の2つの学会で行われている感があつた。オーラルの講演ではもう裾し一体感があつた気がするが。
※	システムが難しく、オンラインで尋ねてもいないポスターの人が多かった
※	ポスター発表は発表者とのディスカッションが有意義なので現地開催のみにした方が良いと思います。
※	オンラインのポスターは全く機能していなかったように思う。
※	oralとは違い、ポスター発表はオンサイトに勝るものではなく、ハイブリッドで行うのは難しいと思った。遠隔の参加者は、現地で説明する場には参加できなかったのではないかと？学会の案内でも、最後まで、ハイブリッドでどのようにポスター発表をするのか、説明がなく、発表者は端末を持参するべきなのかどうかも不明で、非常に不親切と感じた。
※	コロナ禍で対応が難しいことはあるが、偶数、奇数番でポスターセッションを行った場合に、オンライン発表が間に入ると偶数-偶数や奇数-奇数の並びになり、ソーシャルディスタンスをとることが難しかった。
※	オンサイト参加したがオンラインポスターはいっさい見ることができなかった
※	オンサイトにいるとオンラインのことを気にする余裕がない。オンライン参加者もオンライン内でしか交流がなかったそう。この分断は解消できないと思うのでオンラインとオンサイトで時間や日にちを完全に分けるべき。
※	会場にいたが、オンサイトとオンライン同時にポスターセッションに参加することは難しかった。
※	オンラインでもポスター発表ができる機会があつたことはよかったが、オンサイトとオンラインのポスターセッションを行き来するのには困難を感じた。
※	演題数が多いので、事前にキーワード検索で必聴演題を絞り込みますが、それ以外にも時間が許す限りポスター会場全体を回るようにしていると、思いがけず面白い演題に出会うことがあります。これがオンサイトのポスターセッションの醍醐味と言えます。そうやって会場を回っていると、腰をおろしてオンラインの発表を聴く時間がなくなりました。自分の責任ではありますが、見る・聴く立場としては両方に参加するのは困難だと思います。
※	オンラインではポスター発表の視聴は不可能。発表者がログインしていません。オンラインでやるのであれば、オンラインだけの時間を設けるべきだと思います。もしくは初めから発表の視聴はオンサイトのミニする。
※	オンラインのポスターは、はじめてのことであるいろいろな人がいろいろな形式でファイルをアップロードしており、どうやってみればよいのか、とまどった。さらにプレゼンターとのディスカッションの仕方(「いつ、どうやってやるべきかなど)がわかりにくかった。でも、オンラインのポスターの試み自体はよいと思った。

質問9. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて(※) <複数回答可>※今年の年会では2日目に一日通してほとんどの会場で一日中英語セッションが行われるようにし、その他の日程も常にどこかの会場で英語のシンポジウムが行われるようにプログラム編成しました(その他)

回答者番号	その他記述
※	学生のために日本語でやった方が良かったのでは？
※	シンポジウムやワークショップを整理して、一般的な就業時間にメインのイベントが収まるようにすべきと思う。
※	英語のシンポジウムを全日程に配置していただかないと、日本語を使わない留学生やポスドクを帯同しにくい。近年は大学や所属が、学会よりも大学行事優先に求められ、講義や会議が期間中に重なるためオンラインにする方も多いと思う。その結果、日中にしかセッションや発表がないと参加できるものが少ない。朝や夕方以降にもオンラインセッションを入れて欲しい。オンサイトの参加者も、宿やサイトで参加できるようにできる。
※	二日目には終日参加できたので、英語の講演が一日通してあったことは良かったが、これが出席できない日であったら、残念だったと思う。音声の調整が悪く、マイクの声が入らない、声が小さい、音がハウリングして割れるなど、聞きにくいところがあったのが気になった。一々zoomに繋ぐ度にIDを記憶させるようにしていたがメールアドレスの入力を繰り返さなければならず、不便。タイムテーブルの詳細説明からすぐにzoomに飛べず、最上段の「ライブはこちら」へ行かないといけな
※	ポスター発表はやはり夕方の方が良い
※	同時刻に関連がある内容のセッションが重なっており、聞けない。
※	シンポジウムならびにワークショップの会場は入り口の戸は空いていましたが、人が非常に多かったです。立ち見も多かったです。また会場外の椅子が足りなくてそこにも座れず、諦めて帰りオンラインで発表を聞きました。
※	よかったが、質疑応答が日本語になるなら、あまり意味が。とは、感じます。やるなら、ネイティブスピーカーを入れてやるべき。また、発表がおわった瞬間、webから消えるなら、呼んでもしょうがないかも。
※	午前と午後間のポスター発表の時間が長いと感じた。
※	英語セッションはもっとあってもよかった
※	英語での発表は個人差が大きいですが、日本人研究者間で言うと、一部の人はもう少しわかりやすい英語で話す努力が必要で、学会としての取り組みに限界はあるかもしれないが、発表内容は一度は英語を母国語とする人に聞いてもらってから発表するようにしないと海外の参加者は増えづらいのではないかと。論文と同じで通じにくい英語を話しても伝わらない。
※	参加していないのでよく知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	夕方や夜遅くに設定するのは止めて欲しい。遅くとも午後7時には終わるようにして欲しい。午後8時台まであるセッションに参加する気はない。
※	オンライン参加を想定してなのか遅い時間のセッションが多かった。早めにオンサイトを切り上げて帰宅し、子供の世話をしてから再びオンラインで参加、という選択肢ができた点はよかったが、本当にこれが良いのかわからない
※	シンポジウム、ワークショップはすべてE/Jで良いと思います。
※	セッションがすべて平行してあり、時間を分散してほしい
※	国際化という点で英語での発表は大事ですが、日本語で十分だと思います。正しく伝わらなければ意味がないので。
※	ポスター発表は最後の方の時間帯の方が、時間を気にせず議論が盛り上がりやすいと思う。今回はコロナ禍での開催だったので飲み会への流れを断ち切るという意図もあったのかもしれないが、ランチョンに外れてしまった場合、どこかに食べに行く時間も取りにくいので、夜の時間帯が良いと思う。
※	セッション間のインターバルがあったので、そこで帰宅してシンポジウムやワークショップを聞くことができたので良かった。
※	朝9時から始まり、(遅くとも)夕方6時までですべてのプログラムが終わるようにしてもらえるとありがたい。さまざまな理由で夜遅くまでで学会に参加できない人も少なくないと思われる。世代やジェンダーに関係なく多くの研究者が活動できるよう、また、それぞれの人のワークライフバランスが重要視されるよう、運営する側も参加する側もより一層の意識改革が必要だと感じた。今後に期待します。
※	ワークショップやシンポジウムに関しては、オンラインの方が席の位置を気にせず、同時進行中の別のセッションへの移動がスムーズに行えたため、今後も同じようになると快適さが増す。実際、全日程で現地参加したがいくつかのシンポジウム(時間帯)に関しては滞在先からオンラインで参加した。
※	国際化の方針も理解できるが、日本人同士でつたない英語でやりとりして議論が深まらないケースが多い。英語化を推し進めるならば、少なくとも発表者は英語で発表する練習をしっかりと、研究内容がきちんと伝わる様に努力すべきである点を学会側からもっと求めても良い。英語が得意ではないのに、準備をせずにダラダラと話されるくらいなら、日本語にするか英語セッションの演者から外れてもらった方が良い。英語化を目指すならば、学会側が演題募集の時点ではっきりと
※	ワークショップの終わりがちょっと遅いと思いました。
※	オンラインであれば今の形でもいいですが、現地参加では間の時間が長すぎる気がします。ポスター発表の時間を区切って自由討議は夕方に回して午後のセッションを早めに始めてほしいです。
※	2日目の英語セッションに関する工夫に気が付かなかった
※	英語による講演とディスカッションを「学会」で行うことに意味を感じません。英語教育は、それ専門で行うべきもので、学会はもっと重要な科学の情報を広く伝えるべきだと思います。英語が伝わらないために、英語のハードルを作ることで英語が得意ではないヒトを排除しており、日本の将来の損失にも成ります。英語圏からの invited speaker は参加者の何%いるのでしょうか？参加している大多数の日本人研究者に、正しくたくさんの科学情報を伝えるのが、日本の学会としての役割ではないのでしょうか。学会と英語教育と兼ねることは、むしろサボっているように思います。英語教育は学会とは別に機会を午前中に英語の発表が、午後日本語の発表が固まっていたかと思えます。疲れた午後時間帯に日本語の発表が多かったのはとてもありがたく感じました。
※	東京からの日帰り参加の身としては毎日の9時開始はやや厳しかった(が、個人的な問題と思う)3日目午後英語のセッションが無いと留学生がぼやいていたので、英語セッションを固めるよりも、どの時間帯にもあるように配置の方が重要と
※	オンライン・オフラインに関係なく、インターバルが長い(ポスターの時間になっている)関係で、同時刻に多数のoral sessionが行われる形になっており、聞きたい発表・テーマの重複が多数で、タイムテーブルの作りに残念さを感じた。オンラインである強みを生かし、他の一部の学会で行っているようにon demand配信を会期以降も少しの期間もうけることで対応してくれるのであれば、現行のタイムテーブルでも問題は無いのかもしれない。現行の様なタイムテーブルである場合、もう少し分野と時間帯の構成を考えて、みたい演題のかぶりが少ない構成だと助かる。
※	諸事情あるのだと思うが、ポスター発表は夕方頃の時間帯にあるのが望ましいように思う。
※	特になし

質問9. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて(※) <複数回答可>※今年の年会では2日目に一日通してほとんどの会場で一日中英語セッションが行われるようにし、その他の日程も常にどこかの会場で英語のシンポジウムが行われるようにプログラム編成しました(その他)

回答者番号	その他記述
※	聞きたい講演に偏りがあった。3日目に似たようなセッションが多く、行き来していた。またプログラムの時間を前倒して進めていたらしく、聞きたい講演が聞けなかったものがあった。多少の時間の前後はあると思っているが、20分の講演だったので、タイムキーパーはしっかりしてほしいと思った。
※	ポスター発表が早めの時間だったこと自体は悪くないが、発表時間が終わると早々に回収している人も多く、ポスターが歯抜け状態になっていたのは残念だった。とはいえ、ワークショップを聞いてからポスター会場に戻って回収するのは実際手間だったのでそうなるのはやむを得ない気がする。また最終日はポスター終わってそのまま帰ってしまう人も多かったので、やっぱりポスターは夕方の方が良い(会場で集まってそのまま飲みに行けるからとは言っていない)
※	言語は特に気にならなかった。
※	積極的に英語のセッションを行うのは賛成。ただし、分野外の研究者や学生にもわかりやすいように特に単語に日本語訳を付けたり、日本語での質疑も可能とアナウンスしても良いと思う。座長や演者の裁量でよい範囲ではある。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	英語のシンポジウムやワークショップは、全体にちりばめたほうが英語しかわからない参加者は全く参加できない時間が生じず良いのではないかと思います。今後もハイブリッドを続けるのであれば、やはり録画は味気ないので、海外の演者にもリアルタイムで参加してもらえよううまく時間帯を分散して組んだほうが良いのではないかと思います。
※	不参加
※	最終日のポスター発表では、偶数番の発表者は、発表終了とともに撤去作業を始めなければならない、来てくれた研究者と満足に話ができなかった。ポスター発表が午後一番であるのは良いが、その分終了を時間を早めたのでは意味が無い。ポスター発表終了後も1~2時間は余裕をもたせて欲しい。
※	なし
※	わかりません。
※	プログラム(一覧表)は、分かりにくいと感じました。
※	セッション数が多すぎて、セッション同士の間が短すぎる。前のセッションが押すと、次のセッションの準備が十分にできない。また、講演後に講演者と参加者の間でコミュニケーションを取る時間が欲しい。全体的にゆったりとしたスケジュールに
※	国際性は必要でも、納得いく講演・ディスカッションを聴きたいので、できるだけ日本語の発表を増やしていただきたい。
※	英語セッションに気を配る必要はないと思う。
※	日本語のセッションが少なすぎた。
※	オンラインの場合は、ポスター発表が昼にあっても問題はありませんでした。ただ、参加していた場合は、時間を持って余す可能性があったかなと想像します。
※	似たようなテーマのワークショップが同じ時間帯に重なることが多く、そのため自分の発表セッションのみしか見れないなどが今回特に多かった気がします。できればテーマごとにももっと3日間ばらけさせていただけるとありがたいです。
※	2日目にそういう状態であることは参加していても気づかなかったが、英語かどうかなどは全く不毛だと思う。意図がよくわからないし、誰のためでもないと思う。
※	評価できるほど参加できていない。
※	言語の違いは気にならなかったので2日目に英語講演が集中していたことに気がつかなかった
※	2日目のシンポジウムには興味が湧きませんでした。申し訳ありません。

質問10. フォーラムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述(参加されたフォーラムの感想を含めて)
※	AlphaFoldセッションが素晴らしかった。もっと時間を取って、早い時間に行くべきだった。
※	フォーラム、シンポジウム、ワークショップの違いが分かりません。
※	開催意図が不明瞭なものもあった。時間帯は遅すぎるのではないかな。
※	オンラインでは遅すぎる時間で出席したことはなかったが、意外と面白い話題があり、オンラインでは良かった。
※	AlfFold2のセッションは良かった。午後9時過ぎまでになるのは、ながいと思ったが、参考になった。
※	テーマについて:フォーラムは専門研究ばかりでなく、毎年サイエンスコミュニケーションや地域貢献、アウトリーチ活動や教育など社会との接点のテーマも取り上げられてきた。これからも、このようなテーマで開催して欲しい。開催時間帯:今回のフォーラムは、職場からオンラインのみで参加したため、時間帯は気にならなかった。しかし、次年度以降アフターコロナとなっからの会場(オンライン)参加の場合、年会のもう一つの楽しみである夕食をしながらの交流の時間を考えると終了時間が20:00前が望ましい。
※	小さな子供がいると、参加しづらい時間帯だった
※	1, 2日目ともに夜9時まで開催されるのは辛かった。ポスター前の時間を削って、もっと前にずらしてほしかった。
※	フォーラムは参加しなかった
※	時間帯が遅すぎて参加しにくい。
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	夜遅くのフォーラムにオンラインで参加できたのは、とてもよかったです
※	オンラインで参加したので時間帯や長さは気にならなかったが、会場で聞く場合はもっと早い時間帯にしてほしい。実は時間帯が遅く感じたので、あえてオンラインで参加した。ハイブリッドだとこのような時に便利であると痛感した。
※	参加していないのでわかりません。
※	フォーラムは中途半端な感じがしました。ディスカッションは深くなかった。
※	研究不正問題には今後眼をつむるのですか?
※	19:15~20:45という時間帯では参加できない人も多いと思われます。より一層の意識改革が必要だと感じる。
※	コロナと社会との関わりを扱ったフォーラムに少し出たが、コロナとはあまり関係のない各(宗教)団体の宣伝のように感じるところもあった。
※	時間帯が遅すぎる。
※	オンラインだと時間を気にせずできるのでしょうが、オンラインの場合、もう少し開始時間が早いとありがたいですが、他との調整で難しいでしょうか。今回オーガナイザーとして参加しましたが、ハイブリッドでも問題なく運営されていて、スタッフの皆さんには感謝しかありません。オンライン参加者の人の顔が見えないのが残念ですが、質問も挙手形式で繋いでもらえて滞りなくできなと思います。また、パネルディスカッション形式の総合討論も可能で、とても良かったと思います。
※	会期を短縮する重要性は理解するが、近郊から通いで参加し家庭がある人などにとっては21時近くまでになるのは厳しいのでは、一方で、ハイブリッドであったので、この部分についてはオンラインオンリーの時よりは改善しているように思っ
※	特になし
※	オンラインだったのでフォーラムへの参加は現実的にはムリであった(片道1時間程度で通ったため)。また、オンラインのみであったとしても一日の拘束時間が長いのは参加意欲をそぐと思う。昔海外の学会は一日が長いと思っていたが、オンラインになったら逆に短くなり、日数が増えた。ハイブリッドでは難しい(会場代がかさむ)いかもしれないが、20:45終了は難しい。家族へのケアもある。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	不参加
※	内容を考えるとやむを得ないと思うが、夜遅い時間になってしまうため、参加者が少ない印象があった。
※	パネリストに偏りがあり、人数が多い割に議論が活性化しない。フォーラムのテーマもややマンネリ化している感があり、理事メンバーもやや偏り傾向があるのではないかな?まだまだ議論すべき課題は多いはずである。
※	AlphaFoldのフォーラムは初心者にも易しく解説してもらえて、非常に有益だった。
※	オンラインだからこそ就業時間外に開催されると正直困りました。ワークライフバランスの観点から残念でした。
※	開始時間が遅いこともあり、長さが60分+ディスカッションが適切かと思った。オンラインで視聴できるのは時間帯を考えると参加者を増やすいい方法であると感じた。
※	フォーラムは良かったのですが、オンライン参加者が多く議論が盛り上がらなかったのが残念です。意見を出しやすい工夫が必要かもしれません。
※	評価できるほど参加できていない。
※	興味があったが子育て世代には参加しにくい時間帯で、実際参加できなかった。



質問11. 年会・学会の企画や取り組みについて、良かったと思うものにチェックしてください <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	研究倫理はランチョンでない方がよかった
※	EMBO 企画は本学会会員のために開催して欲しい。去年は企画内容・演者共にとても良かった。今年は年会長がオーガナイズするとは、いかがなものでしょうか。
※	分生の年会は、毎年様々なイベントが付随していて楽しめる。今年の「横浜ヒストリア企画」は、その時々のエピソードを思い出して感動した。学会は、発表ばかりでなく参加するだけで様々なドラマがある。これからも楽しい企画をよろしくお願いしたい。
※	会場には行けませんでした。感染対策等様々な取り組みをされていることが良かったと思います。
※	富澤基金メモリアル企画; 発表している人がほとんどいなかったような。横浜ヒストリア企画: 内容はよかったが、インタビューに多様性が欲しかったような。
※	ワクチン接種が他者への感染拡大に与える影響については評価が十分とは言えず、「安心ステッカー」が誰に安心をもたらすためのものなのか不明瞭だった。幕張の魅力も伝えてもらえるのが良かった。
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	新型コロナウイルス感染症の拡大の観点から、対面で実施すべきでなかった。全国から参加者が集まる大規模な学会として、いくら会場での感染対策を実施しても、学会会場での会話に伴う飛沫感染、マイクや設備を介した感染拡大、学会会場外での会食に制限ができないことから、対面開催は問題である。
※	オンラインで(ハイブリッドで)開催できたことは、運の要素が強かったとはいえ、良かったと思います。企画で例年以上に優れたものがあつたかといえば、ちょっとわかりません。
※	安心ステッカーの貼る位置がわからなかった。アクリル板+マスクを通しての口頭発表は聞き取りづらかった。キャリアパス委員会企画ランチタイムセミナーが盛り上がりりに欠けた。もっと本音を聞きたかった。
※	ウチダヒロコの年会ポスターデザイン
※	ポスター会場では板と板の間は広がっていたが、板上の隣同士は相変わらず狭かった。隣が偶奇時間関係なく居たので(こちらのスペースを取って発表していた)、自分がポスターの前で発表できなかった。その点、ポスター会場レイアウトはもう少し改善すべきだと思う。またシンポジウムやワークショップ会場が満席の場合の対策として、廊下にもっと椅子が欲しい。会場内どこでもwi-fiが使えるようにして欲しい。ポケットwi-fiはポスター発表の時間が終わったら直ぐに返却しないといけなかった。常に使えるわけではなかった。
※	おそらく会員がかぶっているからだと思うが、共催をあまりしない方が望ましいと思います(それぞれの学会の自立につながるのでは?) また、会員数が膨張するので仕方ないと思いますが、20年前、10年前、現在と比較すると、明らかに取り上げる分野が散漫になっている印象を受けます。
※	高校生発表は、高校生の真摯な姿勢としっかりした発表に感銘を受けた。しかし、単に高校生と話したいだけ、と思われる人がポスターを占拠して「研究者を目指すならばもっと言い返すくらい気が強くなければダメ」などと偉そうに研究内容と無関係なことを説教している人がいて、高校生が困っていたのは少し残念。
※	高校生発表を拝見し、一部のポスターで議論させてもらいました。高校生に研究発表の機会だけでなく、分子生物学的実験を可能にする資材を貸与したり研究費を公募できれば良いのではないかと思います。そのために分子生物学会の会費を支払うことは有意義です。
※	歴代横浜年会長インタビュー冊子を配布するのならば、プログラム一覧を紙で配付して欲しかった。会場のネット環境が悪く、つながってもノートパソコンの狭い画面では見たいシンポジウム、ワークショップなどを探すことができなかった。何か分からず歴代横浜年会長インタビュー冊子を手にしましたが、読むことはなかった。
※	AlphaFold2.1のセッションを組まれたのは、秀逸。
※	オンライン参加が可能だったこと
※	専門学会としての在り方を考えた時、どのような感染対策をすればどのくらいの規模の集会が可能になるか、ということをもっと社会に示していくことは重要だと思います。適切な感染対策(実験的な取り組みも含めて)をとった上で、オンラインも含めた学会を行おうとした今回の取り組みが良いものだったと思います。
※	せっかく分子生物学会なので、抗原検査、PCR検査はもっと大々的にやってもよかったのでは? OOOグループをスポンサーにしてポスター会場にブースを作るとか?
※	オンライン参加で、自分の大学内から参加したため、通常の仕事にたびたば邪魔されて、ワークショップとポスター発表以外のイベントにはほとんど出られませんでした。ざんねん。
※	毎年キャリアパスについてのセミナーがありますが、どれくらい役立っているのでしょうか?
※	大会に参加していないのでわからない。
※	例年配布されていたスマホ用のアプリがなく、my scheduleの登録・確認などが出来ず、不便であった。オンライン抄録も読みにくく、検索しにくい。過去最低レベルであった。予算がなくてケチったのか?
※	不参加
※	ポスター会場の状況を見れば、感染症対策など全く意味をなしていなかったのは明らかである。
※	全体のタイムテーブルを受付等に掲示してほしかった。見通しが悪くて今何が行われているかがわかりにくかった。
※	質問者毎にマイクを消毒する係員の姿に感動した。
※	応援ソング、さむいのでやめてほしかったです。
※	応援ソングは学会として奇異だと思う。次回から無くして欲しい。
※	AlphaFold2
※	富澤基金メモリアル企画は、とても良かったです。また同様の企画があったら伺いたいです。
※	評価できるほど参加できていない。
※	高校生発表の質と熱気に感心した。無料抗原検査サービスは感染状況の把握の意義があると共に、検査方法への理解が深まり意義があった。
※	富澤基金受賞者ポスター楽しみにしていたのにほとんど発表者がいなかった
※	安心ステッカーが貼ってある貼っていないで対応が異なることはなかった。不要だったと感じた。
※	会場の座席が少ないこと以外は、良くも悪くも、コロナ前の年会と同じようだと感じました。

質問12. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナー(横浜会場・オンライン会場)について〈複数回答可〉  
(要望・その他)

回答者 番号	要望・その他記述
※	企業展示が閑散として寂しかった
※	もっと種類を増やして欲しい(オンライン)。企業展示はオンラインのみで良い。
※	仕事の都合で、ランチョンをオンラインで聴いてから、午後会場に行って展示ブースで実物を見ながら担当者に質問することができた。ハイブリッド開催は、メリットがあると思う。できれば、一か月くらいオンデマンドも準備してもらえると良い。ランチョンは企業情報を得るため役立つので、同時時間の複数企業のセッションにも参加したい。
※	抽選から漏れても、オンラインで問題なく視聴できた。
※	昼食時間帯など、企業のセミナーがあったのかもしれないが、オンラインだと参加できなかったように思う。企業側の要望もあるだろうが、オンライン参加者も聴けるとありがたい。
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	試薬、機器を見せる写真がほとんどなく、企業名しかオンラインでは見られなかったので全く意味がなかった。
※	もう少しオンラインセミナーを増やしてほしい。
※	現地に居るとまったくオンラインの企画は気にしなくなりました
※	オンラインでの企業展示会は壊滅的にダメだ。ウィンドウショッピング的にブースを周るお楽しみ感が全く無い。新製品はやはり現物のデモ機を見たり触ったりしなければ全く感動を覚えない。
※	オンラインからの参加の方法がわからなかった。
※	コロナが完全に終息していない中で、感染に注意しながらバイオテクノロジーセミナーを開催してくれたのは英断。
※	オンサイトで参加していると、オンラインの方にはなかなか気が回らないのではないのでしょうか。少なくとも私はそうだった。会場のWi-Fi環境もひどいし。
※	ランチのチケット予約が取れていたが、会場にギリギリにしかかけず、目の前でランチがなくなった。余るのもよくないのはわかるが、もう少し工夫があればよいと思いました。また、マンモス学会のためにランチを抽選にするのは仕方がないと思いますが、できれば外の混んでいるお店でランチをとらなくてもよいように、不公平感がないように、配慮があるとよいと思います
※	感染対策の観点から企業からの昼食提供はすべきではなかったと思う
※	オンラインでわざわざ企業展示を見に行こうという気にならないし、見るとしても最初から興味があるところしか行かないので、気軽に見て回って実際の製品を見て回れるという点でも企業展示は現地開催でないと意味がないと思う。
※	プログラムの動作が重くて、見るのが大変でした。タイトル一覧だけでも、印刷したものがあるとよいと思いました。
※	オンサイトのみ参加したのでオンラインの状況は分からない。今年は例年より参加企業が少ないように思った。少し残念。ただ、スタンブラーなど、参加者が企業へ足を運ぶ仕組みは良かったと思う。出展企業の減少は学会の規模の縮小に直結するので、研究者が展示ブースへ行きやすいきっかけを作ることは大事だと思う。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	専門書は高額なものが多いので、書籍展示を充実してもらえると、実際に読んで内容確認できるので、購入がしやすくな
※	今年は仕方がないかもしれないがセミナーの選択肢が少なく、抽選にも漏れ少し残念だった。
※	オンサイトセミナーに企業の担当者がいないケースがあり、その場で話を聞けなかったのは残念だった。弁当に余裕があり、毎日どれかを聴けたのは良かった。
※	オンサイトではこれまで会場に入れなかったことがあったが、オンラインだと確実に聞いて良かった。企業から提供されるお弁当は必須ではない。
※	評価できるほど参加できていない。
※	オンサイトのランチョンセミナー、企業展示は有効だった。オンラインは聴講していない。

質問13. 年会の発表言語について(本年会では、シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任) <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	英語での発表内容についていけない学部生もいるかと思えます。日本の理系離れを考えるなら、日本語・英語併記や日本語セッション、英語セッションでの要旨を英語・日本語併記にするなど両方に配慮すべきかと思えます。
※	学生の勉強のために日本語でやるべきだった。少し背伸び感あり。
※	参加者に対する最低限の配慮は必要と思うが、言語の使用は自由であるべきと思う。
※	学部生から各専門分野の研究者まで、学会とは分野を問わず学ぶ場でもあることを考えれば、単なる英語での発表・質疑練習場とするべきではない。海外登壇者も英語で参加するセッションもある、多様なあり方に意味がある。
※	せめてアカデミアの人間は、英語のリテラシーを上げるべく努力すべき。
※	言語については議論すべきところである。生命科学、医学分野の標準言語は英語であり、オリジナル論文は英文で投稿するのが自然である。また、英語ならばコミュニケーションが可能な中国、韓国、シンガポール、東南アジアからの参加者も留学生をふくめて漸増していると思う。日本癌学会などは、ほぼ英語セッションで行っている。できるだけ英語で議論ができるように、我々会員一人一人が、英語力向上に力を注ぐべきと考える。
※	オーガナイザーと演者の英語がオンラインで聴くに絶えない場合は、無理に英語でなく日本語でも良いようにしないと、ディスカッションは深まらないし、聴いていて非常にストレスが溜まります。皆さんデータは良いのだから、もっと英語とプレゼンテーションのクオリティをレベルアップしませんか？ 留学生の方の英語のプレゼンの方が大方の日本人のものよりも数段上であるという自覚を持って欲しい。
※	シンポジウムで、発表者にネイティブがいるならやるべきかも。コロナが終わり参加者に外国人が増えれば、積極的に英語化するべきか。ただ参加者の数%がネイティブと低い割合なら、スライド英語にしておけばシンポジウム、ワークショップは質疑応答完全英語は、半分か3割くらいで良いかも。
※	今回のバランスはよい。
※	英語に不慣れな日本人研究者がいるのは事実だと思うが、将来も見据えて積極的に英語での発表を推奨した方がいいと思います。
※	英語字幕をやるのはとても良い案だが、あくまで英語が正しい場合に限る
※	オンライン化が進むなら、スライドから専門用語を学習させて自動英訳字幕を使用することも可能？
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	シンポジウム、ワークショップはすべてE/Jで良いと思います。学生が多いので。
※	英語の発表者がいるセッションであるのに、他の発表者がすべて日本語であるセッションに違和感を感じた。英語の発表者がいるセッションは少なくとも英語にしても良いのではないかと感じた。
※	今回の方法でも特に気にならなかった。
※	すべて英語でもいい
※	分子生物学会は学生も多く参加することから無理に英語でやらなくてもよい。
※	日本語でも意図が伝わらない方もいるので、英語にしたらもっとわからなくなります。日本語で十分だと思います。
※	英語化をめざすべきなのだが、正直、全編英語だと専門用語がわからず理解できないとき、議論が盛り上がらないときが
※	異分野のを知るためにシンポジウム・ワークショップに参加したが、発表者・聴講者共に英語に不慣れで聞き取りが難しい、かつ普段聴き慣れていない専門用語は意味が通じないため、ほぼ理解できなかった。異分野との交流ができる数少ない機会なので、無理に英語にする必要があるのか再考いただきたい。
※	非常に中途半端。全て英語にするか、全て日本語にするか、どちらかであるべき。
※	座長にはもう少し英語で場を制しディスカッション出来る人を選んで欲しい。自覚の無い人が目立った。
※	日本で行っている学会なので、本来はすべて日本語で行うのが望ましいと思います(外国の方のために、スライドを英語表記にするくらいはわるくないと思いますが)。
※	英語で発表するならば、発表者はシンポジウム演者に選ばれたことへの責任を感じ、しっかりと準備して発表すべきである。英語が上手である必要はないが、下手なのに準備不足だと内容が日本語の場合と比べて半分くらい伝わらないし頭にくる。準備して発表できないならば、演者を辞退すべきである旨、演題受付時に学会HPIに明記した方がよい。全体として、若い発表者はもともと英語が上手であったり、準備をしっかりとってきた印象がある。
※	今の形がよい(シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任)
※	発表は英語で質疑応答は日本語のスタイルが良かった。外国人は英語で質問でも可とすればよい。
※	Q9に記載済み。母国語でScienceのディスカッションができない中国などの国は英語使用が必須になります。日本語は新しい外国の言葉、概念を取り込むことができ日本語でScienceのディスカッションが十分に可能です。日本語を理解しないinvited speakerは先導者なのであえて日本で多くの情報を得ようとは思わないかと。数名しかいないその方々の為を英語を使用することは、その他多くの日本人研究者に損をさせています。英語のプレゼンを日本人研究者の何割が100%理解したのでしょうか？英語プレゼンを100%理解したヒト以外、日本の学会に出席しながら情報を逃していることになります。
※	英語があまり得意ではないので、上記のような配慮があればうれしいと思いますが、本来英語でコミュニケーションが取れないといけなくて甘えてはいけなく感じます。英語で口頭発表する機会が少ないので、若手にとってはこのような場で積極的に機会を設ける方がよいのではないかと感じます。
※	1つのセッションで英語・日本語どちらも可にすると結果的にほぼ日本語になるので、覚悟を決めて完全英語にしてしまおうか、英語苦手な人に配慮して日本語にするかだと思。しかし外国人の参加をうながすならば最低半数程度のセッションは英語開催にすべきだと思う。Zoomでの自動書き起こし/翻訳が実装可能なのであれば、オンライン上でそれを行うのはよ
※	無理に英語にすることで、議論になっていないことが散見された。
※	シンポジウムは全て英語で良いと思います。ワークショップも今のようにオーガナイザーに一任するのが良いと思います。確かに日本語の方がディスカッションが濃厚になるのかもしれませんが、学会員(学生も一般も)が海外でも活躍するために、英語での議論に慣れておくといいと思います。そのため、シンポジウムは英語のみ。ワークショップは異分野融合による新しい分野など、内容によっては日本語じゃないと分かりにくいものもあると思います。
※	口頭発表のいいところは臨機応変が多少はきくところなので、英語がつかないなら簡潔に日本語で質問を許可したり、座長が簡潔に英語の質問に言い換えたりすればいいと思う。別に何もかもを完璧にやったり一律で例外を認めないようなことをする必要はない。
※	発表時間が十分にあれば英語でもよいが、今回ワークショップで与えられた時間は7分。限られた時間に情報を詰め込むため、また一瞬でスライドを理解してもらうために、あえて日本語のスライドで実施しました。英語併記はどうしても文字が多くなり、フォントサイズも小さくなりがちです。

質問13. 年会の発表言語について(本年会では、シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任) <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	最低限、日本語を理解しない発表者がいる場合は英語で行うべきだとは思ふ。一方で、英語が苦手な参加者も一定数いるので、(質問が少ない時など)あくまで座長の裁量で、日本語での質問も許可する、英語への翻訳を助けるなどしても良いのではとも思う。
※	日本の学会なのだから、日本語での議論、発表を優先すべき。英語でやると、議論、理解のレベルが下がる。
※	現状でよい
※	国際化を進める上で当然英語の方が良いが、分生のようなマンモス学会だと全く知らない分野の話を聞くこともあり、その場合は日本語の方が頭に入りやすい。母国語で開催する学会というのは自国のサイエンスの発展にとっても意味があると思うので今のような折衷案で良いと思う。
※	現在のやり方でよいと思います。
※	留学生の参加者が目立ったため、シンポジウムが英語で行われたことは良かったと思う。
※	全て英語で良い。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	分子生物学会では異分野の内容を聴きたくなりますーそれがこの学会の発足の主旨だったのでは？その場合に英語では理解が不十分です。英語での発表はもっと専門的な学会で行えば良い。
※	英語のセッションで、質疑応答のみは日本語と英語のどちらでも可としたものはより盛り上がっていたように思いました。残念ながら、英語と日本語が同じレベルで議論できる人はとても少ないようなので、ある程度フレキシブルにするのがよいと
※	英語にすることでディスカッションが盛り上がりやすいという難点があった。
※	「英語で発表させて、質疑応答は日本語」などという意味の分からないセッションがあった。英語でやるんなら全部英語ですべき。
※	不参加
※	ひどいものもあったので、ワークショップ開催前に内容をチェックすべき
※	なし
※	英語の発表は発表はなんとなくになっていたが、質疑応答はおざなりで低調であったと思う。質問者も早口で前提なしにいきなり質問事項を並べ立て、配慮が足りないなと感じることもしばしばだった。ゆっくりはっきり話す。最初に相手の論点を確認し、どこに関する質問かをしっかりアドレスしておく。などの質問者の心得などもどこかに載せておけないかと思った。あるいは座長が積極的に介入するとか。
※	Q13は、英語にしないことにする質問になっていませんか？
※	研究室の留学生が日本語なら理解できても英語の理解が難しいといっていた。全般に英語の発表が多く、それはそれで良いと思うが、英語ゆえに議論が盛り上がりづらいところもあったので、英語だけにこだわらない方がよいと思った。
※	基本は日本語が良い。英語は、より専門性の高い学会で行えば良い。日本分子生物学会の役割を考えると、無理に英語にすべきとは思えない。分子生物学会は、広く学問の裾野を広げる意味もあるので、様々な学力の学生にも門戸を開いてほしい。さらに、自分の専門分野以外を学ぶ機会でもあるので、その場合は、英語だとわかりづらい。
※	「シンポジウム・ワークショップのスライドは英語または日英併記など英語圏の参加者に配慮しつつ、発表言語は英語にこだわらず徹底的に議論できる場とすることを最優先すべき」徹底的に議論するのはその時間内では無理な注文でしょう。
※	分生は分野外の発表を聞くいい機会なのに、英語だと分野外の仕事は理解ができない。分生のような他分野が集う学会こそ日本語でやるべきです。
※	どこかに日本語でやっているところがあれば学部生も参加しやすい
※	日本語発表の尊重をお願いします。図表が英語なのは賛同しますが、未熟な英語を媒体とする日本人のコミュニケーションは合理的でないと感じます。
※	学会でのシンポジウム等は、自分のフィールドとは異なる分野の研究をまとまった形でできる場としても位置づけている。英語が不得意なモノとしては、スライドも説明もすべて英語だと理解がかなり厳しい。
※	スライドが日英併記であれば、発表言語は問わないというスタイルがベスト。発生活会のように英語のみの学会であるなら、参加者も減少するし、研究室として以後参加しないと思う。
※	現状のものでよい
※	複数の会場での発表・議論を見ていて、日本語のセッションの方が明らかに議論も盛り上がり、大学院生ともしき若手研究者の議論参加率も高かったように思えます。徹底的に議論できる場を提供するのか、海外研究者による最新の知見を聴講する機会を提供するのか、あるいはその両方を目指すのか、学会の立場・役割をもう一度真剣に考える時期にあるの
※	国際化はもちろん重要ですが、多くの参加者と深く議論することの方が重要だと思います。英語のセッションが多すぎました。検討をお願いします。
※	分子生物学会は、専門外の分野の勉強にも利用していて、思いがけない発見やアイデアにつながることも多いのですが、英語ばかりになると、専門外の分野の理解ができず、興味が削がれてしまいます。実際、日本語のワークショップの多くはとも勉強になりましたし、逆に英語のつたないディスカッションを聞いても、あまり役に立ちませんでした。昔は著名な外国人による英語のシンポジウムは貴重でしたが、今は日本で英語の発表を無理に聞かなくても、英語圏のオンラインの国際学会に出ればたくさん聞けます。英語の得意な座長たちの自己満足の部分が大きいのではないかと感じました。
※	シンポジストや一般演題の発表者に英語圏参加者がいる場合は仕方ないですが、本来、日本の学会でしたら、日本語を使用して欲しいです。ポスターを読む速度なども、日本語の方が早く読めます。理解度も英語より日本語が高いです。学会員で、日本語と英語が同じレベルで使用できる人はどれだけおられるでしょうか。日本の学会で、そこまで、英語圏に付度する必要はないと思います。日本の学会に参加するならば、日本語で、より多くの情報を正確に収集したいです。
※	シンポは英語であるべきだと思うが、ワークショップは混在でもよい。ただ同じセッション内では言語は統一すべき(日本語と決めた?日本語と)。スライドの言語は英語発表の際には英語は当然だが、日本語セッションの際にはどちらでもよいと思
※	シンポジウムについては原則英語使用と定めても良いと思う。
※	全て英語でよいが、専門用語には日本語訳の註釈をつけてもらいたい。
※	国際化を進めるとはいえ、日本で開催されている学会です。特に学生にも教育的効果をとするなら日本語発表は多いほうが良いと思いました。私たちにとっても、分野外のシンポジウムに参加すると英語ではよくわからないことが多いと思
※	評価できるほど参加できていない。
※	シンポジウム・ワークショップの言語は、英語字幕が入るなら発表はすべて日本語でも良い
※	英語字幕を利用していないのでその意義をまだ評価出来ない。しかし一般に字幕表示の性能は高くなっているため積極的に活用すべきだ。

質問13. 年会の発表言語について(本年会では、シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任) <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	英語だけの発表にするのは良いが、英語で発表者に質問しても通じないケースがあり、結局日本語で質問したりした。しかし、国際化を目指すなら、少々無理があっても英語にしていたほうが良いと思う。そうでないと、いつまで経っても若い人が英語に慣れないから。
※	学生さん達も議論に参加できるように、オーガナイザーが積極的にサポートすることも必要だろうと思います。
※	英語での発表や質疑応答にはそれなりの価値を認めますが、果たして日本の学会で英語のみのセッションを行う意義があるのかどうかは疑問です。年会参加者のうち日本語が全くできない方の割合はどれくらいなのでしょう。せめてオンライン配信で世界中の研究者が参加できるのであれば英語の発表は大歓迎ですが、国内の会員限定にしているはその意味も全くないのではないのでしょうか。英語で行うメリットとデメリットをもっと議論すべきだと思います。
※	発表者が日本人のみの場合は日本語のセッションが好ましいと感じた。
※	私が参加したワークショップでは、オーガナイザー自らが複雑な質問を日本人の演者に対して日本語でしていましたが、正しい判断だと思いました。発表も質疑も英語に固定しない方が、互いにメリットが多いと感じます。

質問14. 年会の視聴サイトや、各種マニュアル・ビデオ通話機能を用いたポスター発表の体験会開催といった事前の対応、当日のトラブル対応など、ハイブリッド年会のオンラインサポート体制についてお聞きします  
 <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	視聴サイトが重すぎてスマホで見にくかった。
※	シンポジウム等と、企業セミナーの入りが異なっており、わかりにくかった。
※	視聴サイトの動作が重く、プログラムが表示されにくいことが何度もありました。講演のスケジュールはiCalやgoogleカレンダーに同期する仕組みになっていたが、視聴サイト内でのスケジュール一覧作成機能もあるとより使いやすと感じました。AGRI SMILE社Online ConfはConfitに比べて使いにくいと感じました。
※	発表用のツールとしてポインターを使えるようにするべきと思う。
※	昨年完全オンライン学会の時にあった、演題を選んで抄録集を作成する機能がなく、見逃した演題が多くなってしまった
※	これから類似の開催形式が重なっても、毎年参加できるわけではないので、同様のサポートがありつづけて欲しい。
※	これまで参加したオンライン学会の中で、Webサイトが最も使いづらかった。昨年の方が良かった。講演のZoomのシステムは良かった。
※	ポスターセッションでは発表時間に交流会場にずっと待っていたらいいのかがわからなかった。pdfを閲覧している人が誰なのかがわかるのは大変良かった。発表者から誘える機能が良かった。使い方は説明書や事前のテスト接続で十分
※	演者・演題の検索がわかりにくい。また検索した結果を自分のタイムスケジュールに反映するシステムがないため使いにくい
※	画面を縮小するとプログラムの左端のみしか見えなかったのは不便だった。
※	今回の年会のサイトは非常に使いづらい。これまでの年会で提供されていたアプリを使用したかった。
※	スマホで画面を見る際、プログラムの演題がリストの中から見にくい、選びにくかった。
※	オンラインでのポスターの検索はわかりにくかった。
※	スケジュール管理やアラートがない点、すぐにAbstractを見れないなどオンラインソフトが相当ひどく使いにくいと思った。
※	タイムテーブル上にライブ配信サイトを埋め込み式にするなど、ここかしこでひねりが足りないと感じました。ポスタータイムテーブルはうまくワークしていませんでした。今だに偶数番号の演題がどこにあったのか不明です。ポスター演題だけはリストpdfをプリントアウトして、必要に応じて演題を検索して使用しました。pacificoのwi-fiは使えず、ポータブルwi-fiの貸し出しもありましたが、直ぐに返さないといけなくて移動もあったので使い勝手が悪かったです。web上でポスターを閲覧した人の足跡を残すようなシステムも欲しいです。
※	プログラムが見にくかった。探しにくかった。
※	解像度の足りないポスターが多かったのも、事前にもう少し資料があった方がよいかと思いました。
※	アブストラクトの検索ができないのが不便でした。
※	視聴プログラムであるポスター発表を見てから戻った時、いつもタイムテーブルの左上に戻ってしまい不便だった。
※	今回の学会はオンラインのみでオンデマンドではないとききました。オンデマンドも実施してほしいです。
※	共著者としてのエントリーが検索しにくかった。オンラインのポスター発表がわかりにくい。日数的に少し前もっての予行演習日程を過ぎたあとは、本番まで試す機会がない。パスワードを変更できるようにしてほしい。
※	視聴サイトの使い勝手は、生化学会の方がよかった。特にポスター発表一覧の使い勝手が悪かった。検索機能も不十分
※	異なるセッションを登録した際に、重なる場合があるが(結構あった)一覧表示ができなかったため、どれを聞か判断する際に困った。もしかしらできたかも知れませんが、私にはどのようにしたらできるのかわかりませんでした。登録した発表の要旨も、一括でダウンロードでなかったように思います。
※	ポスターが重く表示できない、または動作が止まってしまうものが多くあった。ファイルサイズはもっと小さく規定したほうがよいかも。
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	例年あった紙の印刷物(本)が欲しい。タブレット、またはパソコンでは見にくい場合もある。
※	できればiOSからの利用も想定してほしい(スクロールがほとんどできず固まった)
※	ポスターを一度みて戻ると最初の画面に戻って非常に使いにくいサイトであった。
※	視聴サイトがとにかく使いづらく、不便だった。
※	ポスター発表用のウェブサービスは、Macintosh使用者だとChromeでなければうまく動かないようだった。問合せには回答いただいたので、サポートは適切であった。昨年のようにZoomで行わなかった理由は分からないが、Zoomの方が使い慣れていたのも、多少戸惑うことがあった。
※	オンサイトでのネット環境が貧弱すぎて、オンサイト・オンラインでもポスターを見るのが困難であった。また、アプリに使い勝手も悪く、改善を希望します。
※	オンラインポスターのサイトは少し使い勝手が悪いように感じた。
※	視聴サイト(Online Conf)については、スマートフォン対応をしてほしい。
※	サポート以前に、感染対策の観点から、ハイブリッドではなく、完全オンラインで行うべきだったと思う。
※	オンラインプログラムは正直かなり酷かったと思います。・発表ページから会場位置がわからない・発表ページからセッションページに戻れない・参加者一覧で同じ人が2人出る・参加者一覧で発表を検索すると、共著発表がでてこない・ポスター一覧でどれがオンラインでどれがオンサイトなのかわからないなど、使い勝手をちゃんとテストしていると思えない出来だし
※	オンラインテーブルが横に広がりすぎ、検索しづらかった。
※	視聴していないのでわかりません。
※	データ登録の仕方や締め切り日の告知方法、参加証の取得の仕方など、手続きの方法が、一貫しておらず、また、お知らせもバラバラに来て、大変わかりにくく逆に驚きました。
※	ビデオ体験では、当日どのように対応すべきか質問したがわからないと言われた。
※	口頭発表のプログラムが、Zoomとリンクしていなかったため、わかりにくかった
※	座長をしていると、セッションの進行に集中するので、トラブルの状況が運営事務局とリアルタイムで共有しづらい
※	オンサイトだったので特に感想はない
※	オンライン視聴は利用していない
※	シンポジウムやワークショップをオンラインで視聴することに問題はなく良かったと思う。その反面、ポスターのハイブリッドはうまくいっているとは言い難かった。
※	不参加です。
※	オンラインは見えていない。

質問14. 年会の視聴サイトや、各種マニュアル・ビデオ通話機能を用いたポスター発表の体験会開催といった事前の対応、当日のトラブル対応など、ハイブリッド年会のオンラインサポート体制についてお聞きします  
 <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	現地発表のみで十分
※	参加していないので、これについては何ともいえません。
※	ポスター発表以外に関しては、視聴サイトはとても使いやすかった。
※	視聴サイトに関しては検索が非常に不便であり、ポスターの閲覧に関しても改善の余地が大きい。昨今の事情からオンラインとオフラインの二元化は良い方向だと思うので、閲覧サイトのユーザービリティの改善を期待したい。
※	視聴サイトの導線が悪く、ページを行ったり来たりする必要があり、その度の読み込みにストレスを感じた。パソコンからはそれなりに閲覧できたが、現地からスマホ等でアクセスしたい場合、使い勝手が悪く現地参加の際の演題確認に苦勞しオフラインとオンラインの両方に参加するのは繁雜で面倒。
※	特に無
※	オンラインは参加しなかったのだから。
※	年会の視聴サイトに、自分が参加したい発表を時系列順に並べて表示する「予定表」的な機能が必要だった。今回はプログラム冊子がないため、オンライン視聴サイトは十分に準備されるべきだった。オンライン視聴サイトは十分に準備されていないと感じた。
※	オンラインのシステムが全体的に使いにくかった。
※	ポスター発表は全例オンラインで見れるようにしてほしい。pdfをあげるだけなので可能なはず。
※	視聴サイトでは、要旨のキーワード検索などができず、聴きたい発表にたどり着きにくい、ポスターのページが重くて時間がかかる、などの問題があった。
※	音声付きの資料を必須にした方が良いのではないかと感じました。
※	事前のアナウンスがなかったのが、どうやってやるのか不安でしたが、簡単に対応できて良かったです。
※	昨年までのシステムと比較して、「お気に入り」にしたプログラムの扱いが小さくなり、タイムテーブル上に表示されない、お気に入り一覧が日程別にソートできないなどの不満は感じた。
※	サイト自体はよかったが、プログラムの冊子(タイトルだけでも)があったほうがよかった。
※	タイムテーブルが見にくかった。
※	オンラインのサイトは、重くスムーズにみることができなかった。また、プログラムや要旨のキーワード検索がうまく機能していないようにも感じた。10数年前の検索機能のようだった。
※	ポスターセッションのサイトは、応答が遅くストレスを感じました。
※	ウェブサイト自体が使いにくかった。特に、検索機能が貧弱(アブストラクト全文の検索ができない、複数条件検索ができない)、スケジュールを作成する機能がサイト内にないこと、いちいち使い方のポップアップが出てきてしまう、など。
※	視聴サイトONLINE CONFは大変使いづらかった。理由としては、1)重い、2)ポスター発表時に画面共有ができない、3)ポスターpdfの解像度が低い、4)自分用のタイムテーブルが作れない、などがあげられる。
※	これまで分子生物学会年会ごとに配布していた演題検索、スケジュール作成アプリを拡張して演題視聴、ポスター視聴が可能なプラットフォームとなっていることが望ましいと感じた。今年会ではここが一気に今世紀初頭まで退化してしまった。10年前ならいざ知らず、現代においてスマホ表示に最適化できていない学会サイトというのは時代錯誤である。
※	会場でのオンラインの発表を視聴しましたが、接続に関しては大きな問題は感じませんでした。ただ、視聴サイトの使い勝手は良くなかった。画面の遷移が遅い・スマホ対応・進行中の講演を一覧で俯瞰しにくいオンライン学会が一般的になるにつれて、もっと良い視聴サイトが出てくるのを期待します。(YouTubeみたいに色々な講演を見れたらいいなあ...)
※	オンライン視聴サイトがとにかく使いにくかった。重い、見にくい、検索しにくい結局、ほぼPDFだけ使用したが、ポスターのプログラムは筆頭著者しか名前が載っておらず検索性が著しく低かった。
※	ポスター演題に移動の都度ポスターがDLされ、要旨を見るのに時間がかかった。視聴サイトは非常に使いやすかったため、維持し、ポスターの点を改善してほしい。
※	ウェブサイトがスケジュールが立てにくく、使いにくかった。
※	現地発表者がオンラインサイトを見に行く事は、時間的にほぼ不可能だと感じた。現地発表の数が減った為に、会場間の移動がなくて良かった。ポスター発表数は今回程度が適切だと感じた。
※	要旨閲覧システムがPC以外だと非常に使いづらい。生化学会大会の要旨閲覧システムが非常に良かったので、そちらを参考にした方がよい
※	シンポジウムのリハーサルはなかったが、希望すれば可能だったのだろうか？ただ、当日ぶっつけだったが運営側がちゃんとサポートしてくれたと思う。しかし、オンラインで会場がどのように見えるのかよくわからず、やりにくくもあった。一方でサイトが重く、サーチがしにくかった。iPhoneで見えていたためでもあるが、PC用レイアウトのため、やたらスクロールしないと現場で演題を探すのが難しかった。アプリにしてもらえるとありがたい。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	オンサイトで発表している場合、発表者はzoomサイトにはログインしていないため(且つ自身のPCを発表デスクに預けているため)、自身の発表に寄せられた質問を、見ることができないのが残念でした。せっかく頂いた質問ですが、座長に取り上げて頂けなかった分は、どのようなものがいくつあったのか全く把握できておらず、お答えすることもできず残念です。その場では厳しくとも、後日どのような質問が寄せられていたかを教えて頂くことができたらと強く思いました。
※	視聴サイトの出来栄があまりにも悪すぎです。キーワードでの検索ができなかったり、反応が遅かったり、とても使う気にならないものでした。他の学会ではなかったくらいのレベルです。感染状況にかかわらず、ハイブリッド化は今後も進めてほしいですが、アプリのできに大きく左右されますので、よろしく願います。
※	オンライン視聴サイトは使いにくかった。プログラム検索、要旨閲覧など慣れるまでに時間がかかった。サイト内でスケジューリング機能が欲しかった。
※	IT活用レベルが過去最低であった
※	不参加
※	今回の「視聴サイト」は使いにくかった。特に会場で、プログラムやポスター内容を再確認したい時に、携帯(スマホ)では使いづらく、その都度、PCを用いて「視聴サイト」を確認をせざるを得ない状況だった。
※	上述した通りだが、非常に使いにくいサイトで満足に演題を探したりできなかった。オンライン要旨や視聴サイトは非常に使いにくく、アクセスが集中する時間には反応が遅くなり使い物にならなかった。これならまだ以前のアプリの方がマシだっ

質問14. 年会の視聴サイトや、各種マニュアル・ビデオ通話機能を用いたポスター発表の体験会開催といった事前の対応、当日のトラブル対応など、ハイブリッド年会のオンラインサポート体制についてお聞きします  
 <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	去年の完全オンラインの時は良かったのに、今回の視聴サイトは重いし使いづらい見づらくてなんでこんなに劣化してしまったのか
※	事前の準備不足を強く感じた。
※	キーワードがなかったことから、演題の検索が過去一番役に立たなかった。また、お気に入りに入れても、時系列で並ばないため、意味がなかった。携帯からの視聴ではオンラインポスターが全く見れなかった。
※	参加者としてオンラインは活用していない。
※	現地参加していると視聴サイトを見ている時間はなかった。
※	人名でに加えて用語の検索サイトを分かり易い場所に作って欲しい
※	オンサイトで参加したので、視聴サイトを(ポスター提出時以外は)見ていない。
※	分子生物学会は規模が大きいので、他の小規模学会ではあまり苦痛に感じなかったサイト閲覧が、今回非常にやりづらく感じた。昨年度のスタイルがあまり記憶にないのだが、要旨が印刷された冊子体の時代を懐かしくまた気軽であったと思
※	・発表者の名前でしか検索できなかったのは課題・キーワード検索や共同発表者名の検索ができると良かった
※	オンライン参加無し
※	web上でのポスター登録が間際になる発表が多く、事前に発表内容を把握して臨む、という目的を達成できなかった。ㄨ切日を学会開催日5日前くらいに設定して欲しかった。
※	PCで使用する分には視聴サイトに不満はないが、スマートフォンではやや見づらい部分があった。
※	当日入室後の音声マイクテストは問題なかったが、実際にビデオ通話が機能せず、また当日のサポートも問い合わせ先が不明瞭で、問題解決できなかった。ディスカッサーが来室しても、音声が届かずポスター発表もディスカッションも行うことができなかった。
※	とにかくオンラインサイトが重くて、使いづらいと感じました。現地での会場探しに苦労しました。二日目から会場の前にセッション紹介が貼られたのは良かった。
※	見ていない。
※	学会終了後抄録などを見直し、知見を復習したかったが、学会終了後即サイトが利用できなくなり大変不便に感じた。事前にサイトの利用期間などを強くアナウンスしておくべきである。また、紙での配布も並行して行えば上記の問題が生じなかったと思われる。
※	視聴にトラブルがありましたが、サポートは受けなかったので、良く分かりません。
※	マニュアルを見ていません。
※	オンライン開催は会場の混雑に遭遇することがなくとても良いと思います。
※	oralのオンライン視聴にはなんの問題も感じなかったが、最後まで、ポスター発表へのオンライン参加というのがどういうことかわからなかった。
※	視聴サイトは会場内で少しだけ利用したが問題なく使う事ができた。
※	分生年会最初のハイブリッド開催としては、スタッフはよく頑張ってサポートしてくれていたと思う。
※	原因は不明であるが、Bluetoothのイヤホンを使用できなかったのは不便を感じた。
※	ワークショップ企画者ですが、当日の発表直前まで海外演者(英国人)のアクセスがなく、リハーサルが行えなかったのですが、現場スタッフの対応で全く問題なく終えることができました。スキルの高い素晴らしい対応にあらためて感謝いたしま
※	プログラムを一覧して、一日の予定(どのセッションにいくか、どの話を聞か)を立てるのが不便に感じた。でも、オンラインのシンポジウムやワークショップは会場の移動が楽し、立ち見や部屋に入れないなどの問題もないので、悪くないと思っ



質問15. 年会オンライン視聴のためのツールのうち、よかったと思うものについてお聞きます <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	検索機能は使いづらい。途中で使うのをやめた。
※	オンライン少しごちゃごちゃついていてみづらい入りづらかった。
※	Online Confの会議室入室の際、通常のin-personでの演者との会話と比較して、敷居が高く感じる。
※	Zoomはほとんどは聞けたので、許容範囲だ。時に音声の不調や止まるなどあったがオンラインならある程度は仕方なく、他の学会に比べると良い方だったと思う。
※	とにかく使いづらい。
※	オンラインの要旨検索システム・スケジュール管理などが極めて使いにくかったです。あまりの使いにくさのため、興味のある演題を探すことを諦めました。検索がオーラルとポスターで完全に区別されており面倒くさい、そもそも要旨内を検索できない、みたい演題を一括してスケジュール登録できないなど、何故このようなシステムにしたのか疑問です。以前の分生アプリのシステムがとても使いやすかっただけに残念に思います。このようなシステムであることが事前にわかっていたら今回の年会には参加しませんでした。
※	コメントに返事が来て討論できたので良かった。検索結果を出力できたらもっと良かった。
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がなくて見ていませんでした。
※	ない。総じて、クオリティが低かった。
※	かなりダメだった
※	ポスターセッションをオンラインで視聴する方法がわからず視聴できなかった。
※	特に無し
※	重すぎる。不便すぎる。
※	視聴サイトのプログラムや要旨検索機能が使いにくく、非常に困難を感じました。
※	Online Confがとにかく使いづらかった。動作が重く、正常に画面が表示されないことが何度もあり、検索結果の表示も不安定であった(iPad使用)。
※	視聴していないのでわかりません。
※	使っていない
※	視聴サイトは使いこなせなかった
※	文字が薄い(背景に同化してしまっている)部分がありわかりにくかった。また非常に重くページの移動のたびにフリーズした。オンラインの視聴では音声途切れていた。お気に入りにした発表の時間が来ると通知されるシステム等があれば良い。プログラム検索については、タイトルだけでは興味のある発表に辿り着けないものも多々あったので、キーワードやアブストラクトの検索もできると良い。
※	とくになし
※	色々な機能が取り入れられていたが、それらに対する説明やサポートが足りなく、うまく使いこなせなかった。若手の発表者も、よく分からずに苦労していたようである。
※	オンサイトだったので特に感想はない
※	ほぼない。
※	オンライン視聴は利用していない
※	視聴サイトのプログラム検索・要旨閲覧機能が使いにくかったので改善してほしい。希望の演題の情報を得るのに手間、時間がかかった。
※	不参加です。
※	オンラインは見えていない。
※	当日は全く使わなかった
※	これについても、参加していないので、何ともいえません。
※	なし
※	プログラム検索・要旨閲覧機能は最悪だった。
※	今回は不便さの方が目立った
※	とても使いづらかったです
※	特に無
※	プログラム検索・要旨閲覧機能は使いにくかった。
※	オンラインは参加しなかったので分かりません。
※	視聴サイトのプログラム検索で、ポスターと口頭発表を分離する理由がよく分かりません。ユーザーが任意でポスターと口頭発表を検索する・しないを選べるべきです。
※	使用しなかった
※	オンラインをあまり使っていない。
※	今回の視聴システムは非常に使いにくかった。特に検索システムはほとんどワークしていなかった。
※	視聴サイトは兎に角わかりにくく使いにくかった。あれではダメだと思った。
※	要旨は講演タイトルと同じページに表示してほしかった(発表ごとにページ遷移するのがわずらわしい)
※	1. 視聴サイトのプログラム検索・要旨閲覧機能が他学会と比較して、ひどすぎた。2. ハイブリッドで抄録集がなくなったのは仕方ないとして、WebでPDF媒体を見つけるのは極めて難しく、不親切極まりない。せめて学会員には、HPで配布できるようにすべきである。
※	特になし
※	タイムシフト再生や倍速再生など、オンライン参加ならではの視聴の仕方にも対処できればさらによい。
※	特になし
※	オンラインツールは使い勝手が良くなかった現地参加したので講演は視聴しなかったが、ポスターの表示が重すぎて検索性も悪く見る気がなくなった。
※	事前にポスターを見られる点は良かった。
※	もっと軽いアプリがあるとありがたいと思う。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	上記に書いたように、視聴サイト全体の構成も反応性も悪く、改善を望みます。
※	プログラム検索・要旨閲覧がやや使いにくかった。

質問15. 年会オンライン視聴のためのツールのうち、よかったと思うものについてお聞きます <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	オンライン視聴サイトで、お気に入りした発表をリストとして表示できない点が、非常に使いにくかった。
※	Zoomによるハイブリッド形式のオーラルプレゼンテーションはとても良かった。音声もクリアに聞こえた。会場間の移動や席確保に労力を割かなく済むため、現地会場にいながら、会場外でスマホで視聴している時間が多かった。ポスター会場などにもっと椅子席を置いて欲しかった。
※	オンサイトで参加すると、オンラインの機能はほとんど使う機会がなかった。
※	現地参加のみで活用しなかった
※	表示がおそかった。
※	不参加
※	視聴サイトは使いにくかった。登録演題(ポスター)は速やかに見れなくするべきだと思う。3日までの公開となっていたはずだが、4日も視聴できる状況であり、自分で白紙のスライドへ入れ替えを行った。情報漏洩の点からもオンラインでのポスターには限界を感じる。
※	演題と参加者歯科検索できない機能はむしろいらぬ。そうと知らず検索してしまって、時間の無駄。
※	使っていません。
※	何も良くなかった。
※	会場参加ではオンライン質問の様子があまりわからなかったので、プロジェクターにも映してほしかった。
※	使っていない。
※	現地参加していると視聴サイトを見ている時間はなかった。
※	Confitについて、スマホ(iPhone)で演題検索する時、なぜか文字入力に非常に時間がかかりストレスでした。
※	いずれも使用していない。視聴サイトの検索機能はあまり良くなかった。
※	オンサイトで参加したので、視聴サイトを(ポスター提出時以外は)見ていない。
※	ポスター番号が飛び飛びになっていて、気になる発表の要旨を探すためには発表者名検索をしないと発見できない事例が散見された。ポスターからオーラルに採用されたからだろうか、とても探しにくかった。
※	視聴サイトの検索機能が、以前のアプリケーションよりよくなかった。前のアプリに戻してほしい。スケジュールの管理も前のほうがよかった。現地に参加しているとオンラインのツールは使いづらくあまり使用しなかった。一覧になっていたPDFで演題やスケジュールを確認していた。視聴サイトには、富澤のポスターが一覧にのっておらず、検索しないと要旨にたどりつけなかった。また発表時間も周知されていなかったのも、あまり人も来なかったのも、残念。
※	使用実績無し
※	お気に入りリスト作成機能が無かったと思うので、あったら良かった。スマホでもPC版を閲覧することになり、見にくかった。
※	特になし
※	見ていない。
※	ショートトーク動画機能は仕様している方はほぼいかなかったと思われる。コメント機能もサイトの利用期間が学会終了後は利用できないことなど明記しておくべきである。また、3日目の講演後コメントを送付することを考慮すれば、利用期間が少し短いと感じた。
※	タイトルに検索用語をなるべく入れるようにするというのは難しい。検索機能は要旨にも対応する必要があると強く感じた。ポスターの閲覧表示が遅く、多くの発表を見ようとするとストレスを感じる。ポスター特有のコミュニケーションのしやすさが、オンラインでは失われているように感じられ少し残念だ。
※	ポスター発表でのビデオ通話時に画面(ポスター)の共有ができないのは決定的に不便であった。コメント機能は時間を問わず質問、回答できるのでよかった。
※	視聴サイトのコメントや質問機能は、ほとんど認知されていなかったように思います。特にオンサイトのみの参加者は、視聴サイトを訪問しないので、認識されていませんでした。
※	サイトをあまりみていないので、該当がない。
※	ONLINE CONFでのポスター閲覧は、レイアウトが少々見づらかったり、ピンチ(iPadで使用しました)に対する挙動がうまくコントロールできず、快適な操作とは言い難い感じを持ちました。
※	なし
※	Zoom Webinarが浸透していて利用に障害は減っている。会場でも小さいスクリーンを見ずにWebinarの画面を見る人がいたと思う。
※	検索機能が死んでいた全然ダメ
※	視聴サイトはほぼ使いませんでした。申し訳ありません。
※	全体的に使いにくかった。特にスケジュール管理ができなくなったことに非常に不満を感じた。
※	あ

質問16. 本年会は、長引くコロナ禍で先の見通しが難しい中、オンサイト開催に基軸を置いたハイブリッド開催の準備を余儀なくされ大きな支出が見込まれる一方、協賛企業の出展が相当数減少しました。そこで本年会では経費節約のため年会プログラム集冊子や年会アプリ、オンサイト会場で配布していたポケット判プログラムを作成しませんでした。またそれに伴い、会員の皆様にはプログラム集冊子に同封発送していた学会会報(年3回発行)の11月号も印刷版作成を見送っています。これらについてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	Web siteからの日程表やプログラムが分かりやすくダウンロード出来るなら良いが、バラバラで分かりにくかった。
※	視聴サイトの検索機能がスマホでは重すぎた。あれが快適なら冊子がなくても問題なかった。
※	無くて問題ないが、アプリがあるとベター。
※	オンラインやPDFに換えられるが、今回のものは使い勝手が悪かった。
※	年会ホームページのプログラム簡易版PDFは便利だった。慣れれば使いやすいのかもしれないが、視聴サイトのプログラムは一覧性に乏しく、目当ての講演を探すのに苦労した。
※	全部の演題を見ているので一覧できる冊子体版が欲しい。不正対策なら参加者の名前が入るようにしてダウンロードされるのはいかがか。検索用ではなく、冊子をPDF化したものがあれば、郵送されなくてもよい。
※	例年になく参加費が高い。特別な事情があるのか、趣味的無駄な要素も多い印象、それらを排除し十分検討すべき。
※	全発表を1冊に載せた年会プログラムの冊子はある方が便利だったが、コスト削減のためには今後もオンライン閲覧にする方ががよいのかもしれない。
※	抄録pdfへのアクセスが悪い。アクセスボタンからすぐpdfを表示して欲しい。会報はpdfやホームページでの参照で良い。その方が効率的で助かる。
※	アプリは便利だったので、コロナ禍が終わり、学会に活気と予算が復活したら、アプリも再度構築してほしい。本学会の視聴サイトのプログラムに不満はありません。
※	オンラインでは冊子は必要を感じませんでした。オンサイトは冊子があると便利に思います。
※	いまやデジタル化ペーパーレスは、常識となっている。今後も、本年度同様にペーパーレスが望ましいと考える。当方の保管スペースを考えてもPDF配布を望む。
※	サイト上で見たい発表をあらかじめ登録などできると良かったです
※	感染症の不便さは理解できるが、参加者に参加するための負担をかけることは、せつかくの広い窓口を狭めることになる。恵まれた環境の人だけのための年会ではない。SNSは使わない人もいるため、利用すべきではない。
※	特になし
※	学会参加者の検索が若干よくなかった気がします。発表していない方の検索ももう少しやりやすいと良かったと思います。
※	PDFのポスター発表者の一覧表が発表者の名前のみ記載されていたため、どこの研究室の発表かわからないことが多かった。要旨集も見にくかった。
※	要旨のキーワード検索ができないのが、不便だった。せめて、演者、要旨の全てが一つに収まったPDFファイルなどを作成してほしい。
※	どこから要旨を見たら良いかわからなかったけど見れたのでしょうか。要旨を見なくてもタイトルだけわかれば良いと思っ
※	アプリがないこと、自分でチェックした演題だけをまとめたスケジュール管理ができないこと、お気に入りにした演題の発表時間が分かりづらく、どのワークショップ内の発表であるかが非常にわかりにくかったことなど、今年の年会はスケジュールの把握が困難を極めました。
※	検索で容易にその演者のセッションやポスターにたどり着けるのであれば、冊子はなくてもよいと思う(あったほうが便利ではあるが)。その分の予算をほかに割くというもありだと思ふ。
※	当初、発表を登録すれば後で騙取できるだろうと思って登録していきましたが、何にもできないことがわかってから、プログラム簡易版PDFを見た。登録した後に騙取できる機能をつけて欲しい。結局プログラム簡易版PDFからコピーで自分のプログラムを作った。
※	参加していないので良く解りません
※	プログラムのサイトが十分に良いものであればそれで良いが、今回のものは最低に近かった。見にくいし、レスポンスが悪いし、検索も機能しないときがあった。
※	例年や他学会に比べても、今回の検索サイトがダメすぎて、アプリやプログラムの必要性を感じた。本来はなくてもいいかもだが・・。
※	視聴サイトがもう少しinformativeであれば紙は不要な気もするが、情報不足な上に必要な時に繋がりにくいことなどあって、今回のシステムでは、紙があった方がよかったと感じる
※	会場に入る前に、日程表のpdfファイルがダウンロードできればよかったなと思いました。視聴サイトだけでは、会期中の全日程を見通すのが難しかったです。
※	pdfプログラムは簡易版ではなく、完全版が欲しい
※	冊子体はなくても構いませんが、プログラム検索・要旨pdf保存機能を充実させていただきたいです。
※	オンラインでのプログラムの検索やお気に入り登録が不便で使いにくかった。
※	ハードの性能によるのかもしれませんが、プログラム検索・要旨閲覧が重すぎて十分な検索が行えなかった。よって、学会のMyスケジュールを決めるのが難しかった。オフラインでプログラム閲覧できる年会アプリが、今回は備えられなくて大変簡易版PDFとオンラインサイトで良いが、それにしても上述の通りオンラインサイトが酷かった。
※	視聴サイトと要旨集をOnline Conf等の1つのシステムにまとめること自体は良いが、もっと使いやすく改善して欲しい。
※	視聴サイトが使いこなせなかったこともありますが、以前のアプリで興味のあるセッション・トークをマイスケジュールとして登録できるのはとても便利だったので再導入してほしいです
※	希望の講演を調べるのに今回のホームページは非常に使いづらかったです。
※	紙媒体は要らない(荷物になる)。しかしアプリはないと不便(パソコンを持参しない人も多い)。とくに今年のオンラインUIはアプリ向けのものだと思う。
※	参加登録しないとプログラムの詳細が確認できない、検索できないのはおかしい。なんのための年会費ですか？今年度は非常に不満でした。プログラム、著者一覧を見て当日参加するかどうかを決めたかったが、Webで確認したポスターのプログラムは著者1名しか載っていない。特定の研究者が発表するシンポジウムやワークショップにのみに事務局の力が入っており、ポスター発表をあまりにないがしろにしていると思う。国際化を謳っているのに、全くあり得ない対応かと思えます。これまでの分子生物学会は、裾野が非常に広いと思っていたが、最近では、そうでもないようですね。

質問16. 本年会は、長引くコロナ禍で先の見通しが難しい中、オンサイト開催に基軸を置いたハイブリッド開催の準備を余儀なくされ大きな支出が見込まれる一方、協賛企業の出展が相当数減少しました。そこで本年会では経費節約のため年会プログラム集冊子や年会アプリ、オンサイト会場で配布していたポケット判プログラムを作成しませんでした。またそれに伴い、会員の皆様にはプログラム集冊子に同封発送していた学会会報(年3回発行)の11月号も印刷版作成を見送っています。これらについてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	不参加です。
※	なくてもよい
※	ブックマークが付けられないので気になった演題を見て回るのに苦労した。
※	ポケット版は欲しい。偉い先生方のインタビューの小冊子があったが、代わりにポケット版のプログラム集があった方が良かった。
※	今回、アプリの有用性を再確認しました。是非、次回は復活してくれたら嬉しいです。参加費が少し高くなっても、必用だと感じました。
※	とにかくプログラム冊子がないことが本会の最大の欠点だと感じました。特に高齢者には不親切です。
※	発表要旨のオンライン化は賛成ですが、今回のウェブサイトは非常に使いにくかったです。例えば、スケジュール管理が他のカレンダーを使うこと、発表要旨を表示させるまでにいくつもの工程があること、など。個人的にはconfitの方が使いやすいと思いました。
※	電子版に移行すること自体は理解でき、良いことだと思います。ただ、電子版だけで学会のプログラムを発行し、学会視聴サイトを運営するのでしたら、使いやすい・見やすいWebサイトをもう少し追及するべきだと思います。今回のオンライン視聴サイトは、プロタイプだと理解していますので、今後に向けた改良を楽しみにしています。
※	プログラムがどこにあるのかわからない、という声が多数聞かれた。抄録を探しにくく、事前に目を通す気が無くなった。
※	紙は廃止の方向でよいと思うが、今回はオンラインのシステムが使いにくかったため、ポケット版プログラムやアプリがないことが不便だった。
※	会場でのネット環境が不十分なのにプログラム冊子配付がなかったため、見たいプログラムを探せなかった。このような体制なら次回の分子生物学会年会は無駄なので参加しないと思う。
※	プログラム冊子は以前より不要でアプリがあれば十分と考えていました。今回、アプリも冊子も無かったことで、自身のスケジュール管理を行う上で非常に不便を感じました。可能であれば、少なくともどちらかはあると良いかと思っています。学会会報はPDF等で良いのではないかと思います。
※	難しい状況の中でオンサイトでも開催して下さったことに大変感謝しております。
※	後で見直しが必要があるため、プログラム冊子は必要である。実際に関心のなかった分野であっても、しばらくたってから見直す機会がある時に、過去のプログラムを取り出してくることはある。従ってプログラム冊子(有料)という選択肢もあったかと思っています。簡易化や斬新な意見がいつも正しいわけではない。また多数派の意見が良いわけでもないことを、学会会長や学会委員の方々には考慮していただくと嬉しいです。
※	ハイブリッドで抄録集がなくなったのは仕方ないとして、WebでPDF媒体を見つけるのは極めて難しく、不親切極まりない。せめて学会員には、HPで配布できるようにすべきである。
※	プログラム冊子が無いのは不便を感じたが無くす方向が望ましいと思う。
※	アプリがないこと自体は問題だとは思わないが、年会ウェブサイト自体の使い勝手がもう少しよくなるべきだとは感じた。
※	紙媒体のプログラム集がなく、非常に不便であった。
※	視聴サイトの使い勝手が悪すぎたのでプログラムやアプリの代替にはならなかった。予算の都合上やむを得なかったのだろうと理解はしますが状況が好転したらアプリ復活させるなど改善してほしい。毎年アプリ開発せずに同じ枠組みで使い回したり他学会と標準化してコスト削減できるのいいと思います。
※	タイトル一覧だけでも、印刷したものとよいと思いました。
※	会報など、PDFで送ってもらった方が読みやすい。
※	紙媒体の簡単なプログラムと地図があっても良かった。A4二枚程度でもOKだと思う。
※	ホームページのプログラムの発表者名が代表者だけなのは困る。自分が関係する発表をプログラムから探すことが出来る
※	紙媒体を減らすことは問題ないと思う。その代わりもっと使いやすい視聴アプリが必要だと思う。また、ハイブリットに耐えるWiFi、電源環境をもつ会場が必要だと思う。オンサイトでもPCやタブレットから視聴する機会が増えるのに、会場の設備があまり整っていないと感じた。Free WiFiが会場のどこからでもつながるようにしてほしい。企業出展が減っていたことが気になった。オンライン出展の企業がったのかどうか不明だが、会員に積極的に企業ブースへ足を運ぶことや、企業からの発表の機会を増やす必要があるのではないかと。
※	プログラム集冊子版もアプリもなかったため非常に不便ではありましたが、コロナ禍により財政が厳しい状況となったことを鑑みれば、仕方の無かったことと思います。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	冊子を現地で見ながらセッションを探すほうが便利だと思いました。また、使いやすかった年会アプリもなかったのも、やや不便でした。ただ、今回は経費削減のために致し方ないと思います。
※	冊子版は重いので廃止しても良い。学会HP、年会HPの、どこに必要な情報があるのかが分かりにくい。年会HPと視聴サイトが別々にあったので、情報を探すのに時間を要した。また、視聴サイトは扱いが難しいところがあった。すべてスマホでも簡単に検索できるようになってほしい。
※	基本的に全ての紙媒体はキャンセルしてよいのでは？アプリはあった方が便利だと思いました。
※	PDFを印刷したので困りませんでした。現地で気になったときにすぐに確認できるアプリまたはポケット判冊子があれば便利だと思いました(予算に余裕があれば)
※	アプリがない、webサイトの検索機能、my schedule機能が無い、カレンダー登録機能などがしょぼい、など、過去最低のレベルであった。借金してでもやるべき。学会参加者のことよりも、経費を優先するなら、やらないがマシ。
※	不参加
※	年会プログラム集冊子はオンラインPDFで良いが、今回のプログラムは画面表示、検索機能など、これまでのそれに比べて使いにくかった。
※	まともなオンラインサイトがあれば良いが、今回のような使いにくいサイトで十分なWi-Fi環境が無いのであれば、アプリなど作ってくれた方がよい。



質問17. 今後の年会の開催形式についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンラインプログラムはプレナリー・レクチャーや市民公開講座などごく一部のものに限定し、原則対面にしたほうが、ポスターや企業ブースへの集客度を保てると思う。
※	オンラインの方が参加しやすいのではないかと。特に地方の学生
※	オンラインは、年会後も一定期間のオンデマンド配信をしてほしい
※	ハイブリッド開催の可能性を追求することを提案する。開催都市や会場の候補を見直し、それらの場所や規模に合わせて自由自在に学会の企画を工夫することを提案したい。
※	現地参加しましたが、会場に居られない時間帯でもホテルで視聴できたので、ハイブリッド開催は非常に便利でした。ただ、ハイブリッドはオンサイト・オンラインのみよりも経費がかかると聞いています。
※	去年今年とオンラインを経験し、予想外にメリットが多いことがわかった。例えば①出張時間・経費の確保がいらぬ。②国内外を問わず、参加できる。③仕事と並行して参加できる。等々のメリットがある。一方、デメリットとして①論文掲載前データをキャプチャーされる可能性がある。②演者との講演後のやり取りがしにくい。③企業展示でのコミュニケーションができない。④終了後の食事等を通じた交流ができない。などコミュニケーションが難い問題がある。オンラインを中心にし、小規模な会場によるハイブリッドは、経費削減やパシフィコ横浜、神戸ポートピアなど巨大会場以外での開催も可能となる
※	会場に全国から大勢の人が集まっているのに、発表者や、座長までが、電車で1時間程度の移動もしないで、オンラインだけで済ますのは礼を欠くのでは。ハイブリでも、座長や発表者は現地に来るべきでは。
※	シンポジウムやワークショップはオンラインで良いですが、オンラインポスター発表は上手くいっていません。また、シンポ等オンラインにするからには廊下や別室にて座る椅子を増やし、wi-fi完備にし、個々のポスタースペースをもっと広くし、かつiPadを置きながらできる台や椅子があるとか、それなりの準備が必要であったと思います。
※	原則オンサイト開催でよいと思うが、もしオンラインを取り入れるならば、オンラインでもそれほど支障がないシンポジウムやワークショップなどの口頭発表はオンラインにし、ポスター発表をオンサイトにするなど、発表形式で一律にする。ハイブリッド開催でのオンラインポスター発表は不利に感じる。
※	コロナの感染状態に応じて、完全オンサイトにするか、完全オンラインのどちらかにし、ハイブリッド開催にしない方がよい。今回、オンラインの疎外感はずく強かっです。質問の真の意図を話すこともできず(それをQ and Aに書いていたら非常に長くなってしまいます)、ポスターも見てもらえず、またオンサイトのポスター発表の人に話しかけることもできず、と
※	昨年は、今年はオンサイトでできるだろうと思っていましたが、地方から大都市に行きづらい現状がありました。来年はオンサイトでできると思うが、確実ではない。したがって、しばらくはオンサイトとオンラインを併用することになると思います。地方の人間からするとオンラインは旅費、宿泊費、時間がかからないというメリットがあることもお忘れなく。
※	口頭発表は問題ないが、ポスター発表のハイブリッド開催は発表と討議をオンサイトとオンラインで同時にできるようにしないと難しい。
※	ポスターと企業展示はオンサイト、口頭発表はオンラインの方が参加・視聴しやすかった。ポスター発表時間以外にPDFを閲覧できる機能は、議論や理解を深めるうえで役に立ったと思う。
※	オンサイトを充実する以外にないと思う。オンラインは、学生や若い研究者には向かない。
※	オンサイト、オンラインのどちらかにした方が、今回のようにオンラインで年會に参加して損することのないようにして欲しい。
※	ポスター発表は、オンサイトのみの混乱しないと思う。
※	基調講演などはオンライン配信も。基本がオンサイト
※	シンポジウムなど海外の人を招待するものはオンラインでやるのがよい。
※	ポスターに関しては、ハイブリッドとすると視聴者が二手にわかれてしまって発表者の対応がほぼ不可能だと思うので、オンサイトに揃えた方がいいと思います。WSやシンポのみのオンライン参加については参加料を安くすることも可能かと思いま
※	少なくともポスターはハイブリッドをやめるべきである。
※	日本と世界の状況にもよるが、本学会は規模が大きいので、オンサイト向けだと思う。
※	今回のハイブリッド開催は、うまく運営できれば、オンサイトとオンラインの両方の利点を取り入れた良い開催方式であるように思われた。そのためには、ハード面の環境整備(会場のWi-Fiのcapacity不足の解消)や、事前の各種案内の徹底が必要と思われる。
※	コロナの状況次第です。
※	今回ハイブリッド開催を試みたことは大変素晴らしい。ポスター発表方法に課題が残るが、それでも全体的に良かったと思うし、今後もハイブリッド開催で模索し続けると良いと思う。
※	ポスター発表をハイブリッドにするのはかなり無理があると思った。どちらかに統一するのが良いと思う。シンポジウムなどはオンラインで全く問題ないと思った。広い会場をウロウロして、椅子がない場合には立ったまま聞かなくてはならないオンサイトよりも、常に座れて前の人の頭でスクリーンが隠れることもなく、所要所で調べ物もできるオンラインが圧倒的に楽で理解度が上がったと思う。
※	昨今の事情に加え、予算の観点からもハイブリッド開催が望ましいと思うが、協賛企業などマネタイズの観点からは別の視点も必要だと考えられる。
※	ハイブリッドは厳しい。現地にいるとオンラインのポスターなどは見る余裕がない。コロナが終息したら完全オンサイト、終息しなかったら完全オンライン、とした方がよい。
※	ポスター発表は基本オンサイトとして、オーラルの発表については、オンラインを推奨してはどうだろうか？時差の問題はさておき、海外からの参加もしやすくなると思うので。
※	オンライン開催を含める場合は、ネットワークやサーバーを(今回よりも)強いものにしてもらいたいと思います。
※	オンデマンドで聴けるようにしてほしい。
※	海外研究者の招待講演についてはオンラインを活用する意義はある
※	コロナの流行の状況に応じて、開催形式が変化すれば良い。全くコロナの不安が無くなれば、オンサイトを基本とするのが
※	口頭発表はオンライン、ポスター発表はオンサイトのような形式でもいいかもしれません。
※	現地に来られない遠隔地の人(海外演者も含め)が参加できるようにZoom参加可、また同じ時間帯のセッションを後から見られるように一定期間録画視聴化にするのは重要だと思うのでハイブリッドを希望するが、基本的にはオンサイトメインの設計でよいのではないかと。特にポスターはオンラインでやる意義を見出しにくい。オンサイト参加者のみでもかなりの数のポスターが集まっていた。例えばオンライン参加者(発表者除く)が口頭発表に質問したい場合は質問時間中に行わなくてもオンラインシステム上で後からやればよいのではないかと。オンラインで質問出ていることに気が回っていないチェ
※	一概にいけない。

質問17. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	分子生物学会のポスター発表は、特に大学院生にとって貴重な経験です。ポスター発表を盛り上げるためにはオンサイトを基本として、盛り上がるポスター会場を作るのが良いと思います。一方、シンポジウムはオンラインとすることで、海外からの演者を多く取り入れると思います。また、海外にいる日本人を積極的にシンポジウム・オーガナイザーに指名して、そのような人達がビジブルになると、若い人たちへのエンカレッジメントになると思います。
※	ポスターは現地のみでも良いのではと思う。オンラインでポスター発表が機能しているのを見たことがないので。一方、ワークショップやシンポジウムはオンラインで見られる意義が大きいように感じた。感染状況が収束しても手間や金銭面で可能であれば続けていただけるとありがたい。
※	留学や感染状況などから、完全オンサイトでの開催は今後も現実的な選択肢ではないと考える。本年の癌学会は、オンサイトを基本としたために大半の演題がオンラインでは見ることができなかったのに参加費はオンサイト・オンラインで同一あり、著しい不公平感を覚えた。オンライン参加の場合、見たい発表が限られている参加者には参加費を廉価とするような配慮をすることによって、従来の研究者のみならず一般の高校生が参加する場合の敷居が低くなるのではないかと考える。
※	オンサイトで参加しましたが、聴きたい講演が満席だった時にオンラインで接続しました。立ち見をせずに済むので、今回のハイブリッド開催は良かったです。
※	オンライン参加は、今となっては感染対策としてよりも「講義や会議で忙しい人が現地に来なくても発表を見られる」という点で利便性を感じている人が多くなっているのではないのでしょうか。しかし現地参加者が増えないとなかなかスポンサーも戻らないのではないかと思います。政府が「ワクチン・検査パッケージ」で無症状者への検査を推奨する方向に事実上方針転換したこともあり、分子生物学会らしく「毎日PCR」「全員がPCR」で安全に大規模学会が現地開催できることを実証してみても？(あくまで願望です)
※	シンポジウムやワークショップは海外からも演者を呼び易いので、オンラインが適していると思う。しかし、ポスター発表は対面の方が圧倒的に良いと思う。今回、参加者がオンラインに分散した為に、シンポジウム・ワークショップ・ポスター全てが「適度なサイズ」になったと感じた。(これまでは会場に入れない事が度々あったが、今回は無かった。また、ポスター会場も広すぎて歩き疲れてしまっていた。)
※	ハイブリッドで皆が満足するように準備するのは相当費用が掛かると感じました。どちらかに重点を置いたり、何年に一回はグローバルなバーチャル開催で会場を借りないような方針でも良いかもしれません。
※	新型コロナウイルスは既に未知のものでも「新型」ですらありません。個人的には、同じ感染症でも肺炎球菌よりも重要性は低いと考えます。新型コロナウイルス感染拡大以前に出来るだけ早急に戻すべきと思います。
※	ポスター発表はオンサイト、もしくはオンラインのどちらかに統一すべき。
※	今後の感染状況にもよりますが、例えば口頭発表は全てオンサイトとオンサイトの併用でもよいですが、ポスター発表は全てどちらかに統一したほうが見やすいと思います。ポスターが少し密になっていることが気になりました。今回の感染状況ならば問題ありませんが、もし無症状の感染者が混ざっていたらひとまりもないと感じました。
※	オンサイトでできない重要な話がたくさんあるので、完全オンライン開催には反対です。
※	コンテンツ充実やセキュリティ強化は、オンライン・オンサイトにかかわらず充実させるべき
※	不参加
※	ポスターもZoomにせよ。
※	シンポジウムやワークショップは、オンサイトとオンラインの併用が可能と思います。一方、ポスターはどちらかにすべき。混っていると、肉声での質疑応答が出来たりできなかつたりなので、不満。
※	オンラインでは学会の意味がありません。
※	どちらかに限定して、一般参加費を5千円以下に抑えて欲しい。オンラインで開催するなら、オンデマンド配信もセットで検討して欲しい。
※	ポスターはオンサイト、オース発表はハイブリッドがいい。
※	オンサイトのほうが議論が盛り上がる感じがした。しかし、危ない時には無理せずオンラインでいいと思う。ハイブリッドでもいいけれども、非常に大変そうだったので、続けるとなると難しいと思う。
※	オンラインではポスター解像度が悪く、現地は人が混みあってポスターが見えないジレンマがある。たとえば現地からのアクセス限定で高解像度ポスターが閲覧できるようになれば良い。オーラル発表に関してはプロジェクター・スクリーンよりも、Zoom・モニター投影のがデータを見やすいが、これも現地アクセス限定で発表スライドPDFが手元のタブレットで見られると非常に良いので、小規模会場や他の小規模学会では検討の価値があると思った。
※	ポスター発表はやはり現地に限ると思いました。
※	ポスターをオンラインとオンサイトでやるのは不可能だと思います。どちらかにしか参加できません。もしやるのであれば、現地で発表する時間と、オンラインで発表する時間はわけたほうが良いと思います。口頭発表はハイブリッドでも良いこの選択肢はいろいろ考えさせますね。複数の地方会場で並行して行うこともありうるということでしょうか。試してみたい気もします。
※	「ハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とし、オンサイトの比重が大きいほうがよい」が、オンラインの会費は安価にしてほしい。
※	シンポジウム、ワークショップを聞くのはオンラインのほうが見やすいが、ポスター発表は現地開催のみでよい感じがした。
※	オーラルトークはオンライン視聴によって、立ち見や途中の移動などの必要がなくなるなど利点が多く、ハイブリッド開催がとてもありがたいです。一方、ポスターはオンサイトでないと利点が見出せず、データを盗むことも可能ではないかと危惧されるため、オンラインではあまりやってほしくない。
※	ポスターのハイブリッドは、オンサイト中心になってしまうので、オンライン参加者の労力を台無しにしてしまいます。オンサイトだけ、あるいはオンラインだけに絞った方が良いと思います。
※	オンラインとのハイブリッドは、会場の人混みが軽減されるという点で、参加の疲労度が軽減され良かったです。
※	未就学児がいます。夕方以降のセッションを今後もオンライン参加で開いていただけると家から視聴でき、とてもありがた
※	オンデマンド配信がないと、オンラインのハイブリッドのメリットが半減すると思う。
※	現地参加者が減少しないように配慮した、ハイブリッド開催が望ましいと思います。
※	今後の感染状況にも依存することで、なかなか判断が難しい。oralは遠隔でも不便を感じないが、ポスター発表は現地が良い。また、交流と言う点では現地がよいし、また学会に集中するという意味でも現地が良いと思う。
※	オンサイトを基本としたい。しかしオンライン化のメリットは大きく海外在住、家庭の事情等でこれなしでは参加不可能な会員がいる。併用の方向でコスト、利便性で最適なバランスを模索していくべきだ。
※	オンラインは便利かもしれないが、やはり人との実際の会話、交流を通して、情報のやりとりをするのが大事だと思う。

質問18. 年会をオンライン開催またはハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とする場合、「未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念がある」との声が聞かれます。講演の事後配信や一般演題のポスターデータ掲示についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	本学会は「ばらまかれて困るデータを持ち込む場ではない」と定義し直せばよい(そもそもこんな大きな学会で色々な人が参加するのに、複写されて困るような未発表データを見せる方が個人的には不用心に感じる)。
※	近年大学にもURAの整備が進むなど知財保全のシステムがしっかり整備されつつあり、未発表データを開示せずに、個別の先生型をマッチさせクローズドに研究指導や相談、ディスカッションできる場を提供し、学会発表とは分けるのはどうか。
※	ポスター会場でスマホで撮影している人を多数見かけましたし、オンラインの録画等も簡単に出来てしまいます。もはや不正コピーを防ぐことはできないでしょう。発表者側で自衛する以外ないのではないかと。
※	ダウンロードできないようにするだけでなく、スクリーンキャプチャもできないようにして欲しい。オンラインでのポスター発表は時間が活用できないので、今回のオンライン発表に比べるとあまり価値がなかった。
※	学会発表は情報が漏れることを前提にしています。
※	ポスターのpdfファイルは一度アップロードしたら自分で消せず、そのためには別のデータを上書きしないといけないことに気づいたのは自分の発表が終わった日の夜でした。その事前説明も欲しいし、誰がそれを覗きにきたのか足跡を残せるようなシステムも必要だと思います。
※	全て、事後配信は、許可しないほうが良いと思う。スクリーンショットが可能だと、ポスターに関してダウンロードの有無の議論はあまり意味がないかも。ポスターは、オンサイトのみのほうが良いかも。
※	発表者側の都合で選択すればよいのではと思う。
※	3と4にチェックしましたが、研究分野の競争率の高さによると思います。現在の私の研究は競争相手が少ないですが、もし非常にcompetitiveな研究をしている場合、私でも1もしくは2を選びます。
※	オンラインでの発表は複写・撮影等が行われる可能性があるため、未発表のデータは発表しないほうがよいのでは。オンラインでもメモは取れるので、結局は発表すればオープンになることには変わりはないのかも知れません。
※	事後配信そのものは複写、撮影のリスクにそれほど影響ないのではないかと。
※	ケースバイケースです。
※	ポスター発表も、未発表データをPDFファイルでアップするのを極力避ける。現地でのみ、データを公開する。
※	録画してなくても、ダウンロードできなくても、不正な複写・撮影は阻止できません。
※	ダウンロードできなくてもスクリーンショットで保存可能なのでアップロードするのは危険である。
※	基本、学会は会場に足を運んでの方が良いという考えを前提としています。オンラインでの開催ですと、参加費のみでかなりの情報を得ることができるため、今後最新データ等が出しづらくなり、結局つまらない学会になる可能性が大きいと思います。事後配信動画等については、データがどのような形で表に出るかわからないですし、悪意を持った人によって変に加工されかねないので、事後配信はやめた方が良いでしょう。
※	シンポジウム・ワークショップ、一般発表に関わらず、未発表データの事後配信は、懸念されます。個人的には事後配信はやめることが前提にあれば、未発表データを入れてもいいのかな、と思います。
※	オンラインポスターを閲覧した人の足跡を残すシステムにする。
※	学会のご努力には敬意を払いますが、オンライン開催を取り入れるかぎり、ここに取り上げられた未発表データの漏洩を防ぐことは、困難であります。そして、そうであるのならば、未発表データの発表をすること自体の意義に疑問を持つ人も出てくる気が、私見では致します。
※	セキュリティ対策をどのように行っても、オンラインで公開された情報は複写されるため、その旨を徹底して注意喚起するとともに、未発表データの公開は発表者の裁量にゆだねるのが妥当だと考えられる。また、シンポジウムなど口頭発表はハイブリッドのママが望ましいが、ポスターの現地発表に関しては公開するPDFと現地発表するデータに差異がある(現地のみ未発表データ有のバージョンにする)事を許容すべきだと考える。
※	オンライン、オンサイトに関わらずシンポジウム・ワークショップの発表は、仮に未発表データを発表したとしても、そのほとんどはもう論文にアクセプトされているものだったり、直に論文化されるものという認識でいつも聞いています。
※	ダウンロード出来ない様にしている、スクリーンショット等で保存可能であるので、ポスターのpdfに関しては、注意が必要かと思う。ただ、オンサイトでもポスターや発表スライドの写真を撮っている人間は後をたないで、注意喚起や、学会独自の罰則があっても良いと思う、そもそも著作権違反に当たらないのであろうか？
※	私は、オンライン上には未発表データを絶対に載せません。学会会場でオンサイト発表のみの場合、または個別に話し合う場では未発表データについても議論したいと思います。
※	今の、ポスター発表の方法では、未発表データが複写、撮影されることになると思う。既に、論文にした研究内容しか、安心してオンラインで発表できないと思う。
※	分野によって拒絶感が違うと思うが、自分の場合はあまり気にならない。
※	発表する以上、流出は覚悟している。流出が困る方は発表を控えればよいだけのこと。オンライン/オンサイトにかかわらず、どんなに対策しても流出するときは流出すると感じる。
※	公開することが憚られるデータは、初めから発表しないほうがよい。
※	本質的にクローズドではない学会で発表している以上、オンラインでもオンサイトでも未発表データの流出リスクはゼロにはならないと思われる。写真をこっそりとったりする人はオンサイトでもいるわけなので、一方、オンサイト時よりもリスクを増やすようなことは拒否できるシステムの方が良いのではとも思う。
※	PC視聴の場合、学会サイト側で右クリックをできなくする、あるいはprint screenキーを押せなくする等である程度の防御はできるかもしれないが、スマホ・タブレット視聴でのスクリーンショットをすべての機種で制限するのは現実的ではない。よって演者側が防衛手段をとることはやむを得ない。
※	ダウンロードを禁止しても撮影やスクリーンショットは防げないので気休めにしかならない。
※	ハイブリットを続ける限り、未発表データは議論しない形になってしまっていると思う。
※	電子データをPC上で閲覧可能とした途端にスクリーンショットを取ることが可能です。完全にデータ流出を防げない以上未発表データの議論は難しいです。オンサイトのみの発表の機会を確保してほしいです。
※	オンラインにしたときには、画面録画をされる可能性が有るので、完全に防ぐことは難しいと思うので、発表側として不安に感じる点があった。
※	ダウンロードさせないようにしている、スクリーンショット撮られたら同じ。せめてスクリーンショットを撮られないような工夫を施すべし。



質問18. 年會をオンライン開催またはハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とする場合、「未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念がある」との声が聞かれます。講演の事後配信や一般演題のポスターデータ掲示についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ダウンロードでも録音でも、演者の判断で選択できるようにしたかった。制限したいヒトだけが制限し、Open source, Open Scienceのヒトは、すべて公開できるように。
※	不参加
※	未発表データのオンラインポスター発表には抵抗があった。今回は3日間の公開だったが、公開日を発表日のみとしたり、アクセスした人の所属が分かるようにするなど、安全対策を考えてほしい。
※	ライブ配信のみにした方が良いように思います。
※	基本的には発表済みの研究結果を発表するので、今のところ問題は生じていない。
※	データは見せたくないが科研費成果件数を稼ぎたいがために学会参加しているのならば、そもそも参加しなければ良いだけの話である。
※	スクープされて困るデータはそもそも発表しないのではないのでしょうか周知されることを前提に発表資料を作成すればよいと思います
※	自分の発表内容に興味を持って下さる方との交流を目的とするので、飽くまでもポスター前まで脚を運んで下さる方々に説明できれば良いと思います。
※	年會で発表した内容もプレプリントレポジトリのように、盗用された際の証拠になるような仕組みがあれば良いと思う。
※	発表資料を不正に複写・撮影等した人を特定できるようにすれば良い。
※	学会が国際化を目指す以上、海外の良識のない人の目にもデータが触れる可能性が高まるため、国際化と未発表データのオンライン発表は相入れないベクトルだと思う。
※	今回はオンデマンド配信が実現しなかったことが残念だ。許可を出したものだけでも配信が可能な方策を考えるべき
※	オンデマンド配信は併用し、その可否は講演者の選択にすればよい(ほとんどの国際会議ではそうやっている)。発表内容をスクリーンショットされるのを防ぐことはできないので、発表内容は積極的にプレプリントサーバー(bioRxivなど)で公開するようにすれば、科学の発展につながると思う。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	今回は会場とオンライン参加を併用したが、講演者や座長と個人的にネットワーキングするのであれば、シンポジウムやワークショップを会場で視聴する意味を全く見いだせなかった。なので自分の場合、講演は滞在先のホテルから視聴するケースが多かった。また、座長の先生に一言挨拶したいと思いい会場に向いたが、オンライン参加でがっかりし、というケースもあった。講演者だけでなく座長も参加形態が分かると便利だと感じた。その一方で、ポスター発表は明らかに会場の方が快適で有意義であったので、利便性向上のため事前にPDFをアップロードする形式は保ちつつも、会場で議論する
※	海外のスピーカーを招待する経費を節約できるから、もっと多くの教育的講演を海外の人に依頼してほしい。地方の研究者にとってはオンライン参加は非常に助かる。講義や会議なども両立できる。
※	長丁場なので、オンラインだと体力的な負担が少なく、助かりました。
※	コロナで何処の学会も同じ課題に直面するが、学会数の多すぎる問題など、マクロな課題や、マージ化など、それによる質向上は、学会執行部何きちんと考えた方がよい。
※	今後covidが完全に終息したとしても、オンライン、オンデマンド配信の利便性は高く、完全になしにしない方向にしていきたい。
※	今回はオンラインで参加しましたが、プログラムの検索機能が今ひとつで自分の興味のある演題を見つけるのに苦労しました。従来のアプリ版ではそのような事がなかったので、残念です。
※	同じ土俵で切磋琢磨するため、欧米研究者のオンライン(録画でも良い)参加を増やすべき。
※	ハイブリッド開催の可能性を追求することを提案する。開催都市や会場の候補を見直し、それらの場所や規模に合わせて自由自に学会の企画を工夫することを提案したい。学会のマナー化の改善に効果的と思う。
※	オンラインの日と、オンサイトの日を、別の期間に設定することはできませんでしょうか。会場が密にならないようにオンライン参加者数は絞ることもできるかと思います。
※	複数の学会とリレーや並列で開催して、地方から1度の出張で情報を集められるとよい。家族や大学業務のため平日は参加できない会員のため、長期休暇期間や週末を使い、朝や夜も活用して欲しい。大会役員に地方大学の方を加えるなどすれば、配慮するポイントがわかると思います。また、遠方からの参加者には、初日の朝一番、最終日の夕方を避けるような希望が出せるようすと、旅費負担が減るので学生を連れてきやすくなります。今回、学部3年生を参加させましたが、おすめのセッションを尋ねられました。20年位前に発生生物学会が、夕方に若手にもわかるような、発表者と解説者が前にいて難しい言葉が出ると、解説者が講演者に尋ねながら進める教育色のあるセッション(学部生の知識で理解できるよう方法や内容に配慮)を行っていました。当時学生だった私はとてもありがたかくよく覚えています。参加を促した学部生を念頭にいったセッションでは、オンラインで進路相談やロールモデルになりそうな各世代の会員と接する機会があつて
※	設立当時の趣旨をふまえ、娯楽や無駄な要素を排除し、学会としての使命と実直な運営に立ち返って欲しい。どの学会も模索中と思うが、ライブシステムも視野に会員の意見も十分反映すべき時期と考える。何れにしても、運営側の皆様すべてに感謝いたします。
※	シンポジウムやワークショップのZOOM視聴はとても有難かったです。roomを変えるだけで他のワークショップに移動できるのはとても良いです。現地参加を考えた場合部屋の移動が大変です。
※	ポスターは現地参加の方が良いと思いますが、大規模な開催は今後も難しい状況が続くのではないかと思います。ポスター発表のみのオンサイトの地方大会が年2回ぐらいあっても良いと思う。
※	オンラインで、プログラムからのセッション講演会場へのアクセスをもっと良くして欲しい。もっと検索しやすくしてほしい。紙のプログラムはオンライン開催のみになっても今後もいらないと思う。オンラインでは学会会場が居住地より遠いため、移動時間や出張に伴う培養などの仕事を休止する作業などで大変で、時間が取れず、いつも聞けない講演が多数ある。今回オンラインでかなりよく講演が聞けて、十分有意義だった。メーカー展示はオンラインでは内容が薄く、弁当やおまけ目当てでしかない。情報提供はもっと企業がオンラインセミナーなどを積極的にすれば良い。オンサイトの感染予防策も頑張っておられることはわかるが不安があり、当方病院勤務であるため当面オンライン参加は出来ないと思う。
※	各Qの自由記述への記載と重複するが、オンラインのメリットは大きいため、今後はハイブリッド開催を基本に議論されることを期待する。特に論文投稿前のデータの扱いは発表者が考える必要がある。2020年以降COVID-19関係のプレプリントがbioRxivに多く掲載され、情報提供や議論が行われている。分野によって登壇者により考え方も異なると思われる。
※	今回の難しい状況下でオンサイトハイブリッド開催いただいたことに大変感謝しています。オンサイトの良さを再認識するとともに、遠方からオンライン参加できるハイブリッドの良さも感じました。大変おつかれさまでした。
※	シンポジウムやワークショップは現地発表、オンライン発表のハイブリッドであっても問題なく視聴できました。運営に携わっている皆様や座長の先生方、発表者の先生方の事前準備や当日運営がとてもスムーズだったのだと思います。ありがとうございました。
※	オンライン参加者の立場からは、オンデマンド配信がないことに不満を感じた
※	年会費を払わせているにもかかわらず、抄録がないことは、不親切であり評価できない。デジタルでも良かったので抄録は必要であった。運営費が大変なのは理解できるが、web baseのみにすることは、参加者の善意、参加者の所有するガジェットへの依存度が高すぎる。スマートフォンですら小さくて見えない。web baseのみにする判断を行った分子生物学会の運営関係者に大いに疑問を感じる。
※	ポスターを貼るパネルの列と列の間隔は開いていましたが隣とは密接していたので、発表するにも人が近すぎて非常に困りました。私の隣の人は奇偶番号別の時間帯関係なくずっと私のポスター領域に侵入しながら発表説明していたので、私は終始自分のポスターに近寄って発表することが出来ませんでした。感染対策を行いながらポスターオンライン発表にするならば、その仕様に改善すると思います。例えば、板状に横並びにするのではなく、3-5ポスターを外向きに独立したスタンドにするとか。ともかく隣のパネルとの間をもっと開けることは必要です。また、ポスター会場で自由に座れるスペースがありましたが、頻繁にアルコール消毒してくれた係とそのシステムを設置してくださった方々に感謝します。そうであるだけに上のポスター発表場所とのギャップを不思議に感じました。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	ポスター発表を真ん中の時間帯に持ってきたのは、良かった。口演がなく、ワークショップに組み込む形がよかった。ただし、いくつかの発表で、他の人(同じラボの学生や研究員?)が発表した内容を、また他の人が数分使って発表したりしていたが、それは口演時間を使って単なるラボ紹介をしているだけでは?とも思った。ポスター発表に、賞を設けても良いかも。分子生物学会くらい、スーツ?ジャケット?フォーマルウェアを禁止くらいにしてほしい。たぶん、普段の服装でやる方が、ざっばらんに話しやすい学会になるかも。正装の有無は、研究内容に関係ないのでは?たぶん、本来の分子生物学会は、そんな会だったような。偉い先生ともラフに話せる会が良い。
※	非会員ですが、オンラインがあったので初めて参加しました。ハイブリッドのご準備お疲れ様でした。有難うございました。
※	オンラインでのポスター発表が非常にやりやすかった。おそらくオンライン参加者がメジャーだったからかもしれない。同じ参加費を払っているのにと感じてしまった。オンラインとオンラインの参加者予定者がそれぞれどの程度かあらかじめ知ることができればよかった。
※	face to faceのオンサイトは重要だと思うが、いろいろな理由で参加が難しくても、オンラインだと参加しやすい。
※	コロナにより状況が常に流動的な中で、よく開催して頂きました。人と会って話すことは何よりも刺激的で、今後もオンサイトの会合を希望します。紙の冊子はいらないかなと思います。ありがとうございます。
※	一案として、同じ系列のセッションで今年英語での発表だったものは翌年は日本語にする、というように隔年で言語を変えるというのはありだと思った。セッション全体で半分から3分の一が日本語だとよいと思う。英語中心だと、とくに若い人にはかなりハードルが高くなっていると思う。英語だけが毎年続くとはやはりディスカッションの盛り上がり弱いと感じるので。
※	いろいろな分野の話が聞けたことは良かった。その分演題数が膨大でしたが、協賛企業も某学会に比べると多かったです。いろいろな分野で分子(核酸、タンパク質)を扱うようになってきているためではないかと思います。離れた分野の学会と共同開催をするのも手かも(これまでも共同開催はありましたね)。
※	ポスターPDFのアップロード、口頭発表のオンライン配信、ポスターと企業展示のオンサイト発表は今後も続けて欲しい。セッションごとのオンラインオンサイトの参加比や安心ステッカー申込件数、抗原検査数、ショートトーク動画の登録率等、出せるデータは積極的に公表してもらえると議論が深まるのではないかと。
※	オンラインでプログラム等の配信をするのであれば、一か所で時間配分等のすべての情報がみられるようにしたほうが良いと思います。
※	まずは真面目に、真摯に、研究者と学生のために行われることを期待します。ウケ狙い、話題作り、思い作り、は、ほどほどにしてください。応援ソングなんて必要ありません。
※	ポスター発表は良かったと思う。一方、あちこちの学会シンポで話すいつもの人たちのシンポ・ワークショップはイマイチなものもあった。また、老いも若きも話したいのはわかるけど、同じラボの人が別々のセッションで同様の話をするのも含めて、あちこちで同じような話をする人々を制御できないものでしょうか。分生に限っては、教授や室長はポスター発表しかできないくらい、シンポやワークショップは、准教授以下か海外演者のみなんてすると魅力的な改革案になる気がします。司会もプレナリートーク以外はなしにして、院生たちも偉い人に直接会いたいですからね。確か、発生物理学会などはそういう試みをしたことがあったように思います。
※	生化学会との合同の方が、盛り上がるし、量も質もよくなるので合同大会が良いのではないかと。
※	久しぶりのオンサイト学会参加で、対面のメリットを再認識しました。一方で、オンラインも併用していることにより、地理的・時間的に現地参加が難しい方々も広く参加していただけて、今までより充実した会になったのではないかと感じました。
※	オンライン開催は、現地会場での非公式の交流ができない点が問題だが、それはシステムを開発することで解決できる気がする。それを開発できれば、世界的に大きなインパクトがあるのではないかと。
※	久しぶりのオンサイトはやはり良かったです。オーガナイザーやスタッフの方々、お世話になりました、お疲れさまでした。
※	オンラインでの参加は、ポスター発表に多少の不便や限界があったものの、口頭発表の視聴に関しては、会場を移動する必要がない、満席で座れないことがない、体への負担が少ない、感染症に罹らない、といったメリットを感じました。今後も参加方法を選択できる方が、より多くの人にメリットがあると思います。
※	今回はコロナ感染状況の予想がつかない中での開催で、とても大変だったことと思います。そんな中で対面でも行っていたので、改めて対面の良さを感じました。また、オンラインでも並行して行って下さったので、会場がそれほど密にならず(ポスター会場を除く)、対面でも安心して参加することができました。私自身は、オンラインと会場とで使い分けて参加し、そのため、いつもより長時間参加することができました。準備が大変かもしれませんが、ハイブリッド開催は良いですね。対面の良さとおオンラインの良さを感じた学会でした。ありがとうございます。
※	昨年度も今年度もオンライン参加したが、昨年度に比べて今年度は不便な点が多かった。今年度はハイブリッド方式での開催であったが年会費が値上がりしていなかったため、オンライン参加にしわ寄せが来ているように感じた。来年度以降もハイブリッド形式を続けるのであれば、年会費を値上げしてでもオンライン機能の充実を図ってほしい。今年度のようなオンライン形式では、プログラムの検索機能やお気に入り登録の不便さ、ポスターの画質の悪さやディスカッション機能の使いにくさなど、あまり年会に参加する意味がないように感じた。
※	コロナ禍で大変な中、準備から開催まで大変なご苦労だったと思いますが、素晴らしい学会でした。参加させていただくことに大変感謝しております。学会参加から遠ざかっていた2年間でしたので、学生たちも大いに刺激をもらったようです。ありがとうございます。組織委員会の皆さま、お疲れ様でした。
※	プログラム冊子を配布しないという点には予算などを考えてやむを得ないかと思いますが、せめてこれまで配布していた紙の冊子に相当する統合版のPDFをダウンロードできるようにして頂ければ有り難いです。今年はシンポジウム、ワークショップ、フォーラム、ポスター、1日目、2日目、3日目で、様式及び日にちに別にダウンロードするのは、(検索するためにどうせバラバラのファイルを統合するため)、無駄であると思いました。
※	発表は全部オンラインでも良いですが、ポスターはもっとちゃんとハイブリッドの新しいやり方を考えないといけない。本質的にはオンサイトで重要なのは議論と企業展示なので、ある程度大胆に切り分ける(シンポジウム・ワークショップなどは全部オンラインで、meet the speaker的なオンサイトセッションを作る、など)ことが重要。
※	生化学会と合同で開催してほしい。
※	大変な時期での学会運営、お疲れ様でした。早くコロナ禍を克服して、以前のような学会が開かれることを望みます。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	日程が短く同じような分野のセッションが重なっていることが多い。夜のセッションは参加者も少なくなる。日程を長くして1日あたりのセッション数を減らした方がよい。そもそも分子生物学が退潮しているなかで多くの研究、セッションが分子生物学の名前にあっていないと感じる。分子生物学会という名前を見直すべきではないか？
※	分子生物学会は、網羅する分野が広いので、例えば、大きな総会は数年に1回にして、各分科会(動物、植物、微生物など)を作って、そちらは年1回とかにしても良いのではないのでしょうか？
※	微妙な状況でハイブリッド開催に踏み切って頂き非常にご苦労があったと思いますが、参加者としてはオンサイトの学会の重要さを噛み締めた会でもありました。オンラインでの口頭発表は非常にスムーズで問題なかったと思いますがポスターのあり方は発表者側、視聴者側、共に難しい面がありました。オンラインのみ、オンサイトのみ、に統一した方がいいと思いますがオンラインに統一すると現地参加の人がすべてインターネットにアクセスすることになるので無理なのかなと思います
※	分野の偏りは必ず起きてしまうと考えます。そのためにワークショップも少なからず偏ってしまうのも仕方無いと思いますが、この改善のための方法を考えた方が良くと思います。コロナをきっかけに、オンラインとのハイブリッドは形を進化させつつ今後続く傾向になるのでは、と思いますので、未発表データの扱いについては今後も議論が必要と思います。海外の学会もまだ、この点について改善されていないので、グローバルな問題だと思います。ワークショップの内容の選定は選定委員のセンスにも係るかと思いますが、このハイセンスは重要かと思えます。
※	初日の朝一のシンポジウムの座長でとてもお世話になりました。運営側も最初は慣れていなくて大変だったかと察します。今回のオンライン開催はいくつかの問題点もみえてきたが、これは実際にオンラインやってみないとわからないことなので、今回の運営の皆様や年会長のご苦労に敬意を払いたいです。そういう意味でとても貴重な試みで意義のあるハイブリッド開催と思いました。お疲れ様でした。
※	今回は久しぶりにオンサイトの学会に参加し、関係のないと思っていた分野の研究をたまたま聞いて、実は自分の研究と深いところでは繋がっているなどことがわかるなど大変面白く勉強になりました。答えがない中のオンサイトを決断していただきありがとうございます。またいつの間にかなくなってしまっていた口頭発表の公募が久しぶりにあり、俄然、分生で発表する気になりました。実は口頭の公募が無くなってからしばらく参加していませんでした。これまで偉くなった先生達のお友達同士(新学術/学術変革など)で研究費を出す前(または後)のmeetingと化していた口頭発表が楽しくなりました。今後もぜひ公募の枠を増やし、研究仲間が少ない若手やコミュ障だけじゃ優れた研究者が発表する機会を作ってほしいと思います。科学は多数決ではないのだし、若手やコミュ障研究者はお友達が指摘しないことを率直に指摘してくれることがあるので。これまで若手が研究に残らないと言いながら、お友達グループの若手だけに発表のチャンスを与えていたのは問題だと思います。是非、フラットに良い研究を口頭発表にする審査方法を作ってください。
※	ハイブリッド開催は、発表者や参加者の都合でどちらかを選択できるので、多くの参加者が見込める将来性のある学会開催方式だと思う。臨場感のあるオンラインソフトも開発されているようで、ハード面の環境整備(会場のWi-Fiのcapa不足の解消)や、事前の各種案内や説明等サポート体制を充実させれば満足のいくものになると思われる。
※	横浜会場にはまた必ず戻ってきてほしい。分生=パンフィコ横浜、です。
※	一部のエライ人だけが盛り上がっている学会に成り下がった。ポスター発表のプログラム詳細がwedで見れない上、冊子も配らない。メール配信も無い。この点を見てもポスター発表を軽視していることがわかる。実行委員がポスター発表を軽視していると感じていないこと自体が問題。前は、気楽に参加し、いろんな人と個人的に直接話せるのが良い点だったと思います。コロナは関係ないです。規模が大きい学会であるに関わらず、学会誌のIFが2しかないことを直視すべきでは？
※	どういう議論によりこの形式になったのか議論を開示していただきたいと思いました。参考になると思います。
※	ハイブリッド開催にするからには会場でのwi-fi環境を良くして、どこでもオンラインで使えるようにしてほしい。感染対策を徹底して、オンラインを意識した会場設営を考えて欲しい。オンサイトポスター発表は(偶奇時間を守らない人が多い)一つおきにするか、板で並びにしないで柱にするとか工夫が欲しい。
※	研究不正問題には今後眼をつむるのですか？学会幹部がみんな後ろ暗いから？
※	オンサイトの開催がありよかったです。オンサイトの開催を決断された組織委員会の皆様に敬意を表します。
※	赤字になるのでオンサイトのみでやるべきである
※	・コロナ禍が終わったら、ポスター発表をオンラインでやる必要は無いように思う。・コロナ禍が終わっても、オーラル発表のZoom配信は引き続きしてほしい。・録画の事後配信をデフォルトにすると、斬新な発表や刺激的な質疑応答は減ることになると思う。・市民公開講座は、一般市民にはやや難しい内容だったと思う。また、台本はもっと事前に練った方がよい。研究者としては非常にユニークな人も、芸人として見たら一流ではまずないので、一般人相手のアウトリーチを当日の成り行き任せで行うのは避けた方がいい。
※	正直いうと、この学会は公募のシンポジウム、ワークショップの数が年々増え続けていると思います。その結果、1つ1つのセッションの密度が薄くなり、質疑応答などが充実していない場面を何度も目撃しました。これについて思いますことは、どうもこれらのワークショップを企画する人たちは、自分達をアピールすることに意識が集中しているような印象を受け、現代の世相を反映しているように思えます(逆にこうでもしないと、なかなか研究費獲得や執筆の依頼などにつながらない、という側面もありそうなので、一概に彼らが悪いとまでは、いいませんが)。
※	分子生物学会ほどの大きな学会だと年に1回顔を見たいという人もいるでしょう。若い人にはオンラインよりもオンサイトの議論の方が刺激になると思います。それぞれの地方に分散させて1回ではなく、年に複数回でオンラインで、その地方の特色あるセッションを組んでも面白いのではないのでしょうか？
※	シンポジウムのオンライン化は続けてほしい。オンラインにすることで、海外の方からも発表しやすくなるのではと思う(時差の問題はあるが)。自分は耳からの情報の聞き取りが苦手なので、個人的にはオンラインの場合は字幕をつけてほしいと思う(日本語でも英語でも)。オンラインの接続、音声などはほとんどトラブルがなくとても良かった。要旨集(冊子)は別になくとも問題ない。オンラインでのポスター発表は別の学会で使っていたgather townのシステムがとても良かった。ポスター発表に関しては、去年のツールのほうが使いやすかった。ポスターのハイブリッドは全然いいところがなかったと思う
※	日中はオンサイトで参加し、ホテルからオンラインでフォーラムは参加したので、ちょうど良かったです。部分的にオンラインにする場合には移動時間が長いと影響が出るので、現地参加で、宿泊前提であるならば、とても良いと思いました。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	年会の内容は、分子生物学中心というよりは生命科学全般を網羅した感じになってきており、学会名を含めて再検討するべきかと思う。また参加者の多様性に対して、学会内で目立つ人はゲノムエピゲノムなどコテコテの分子生物の人が多く(特定の研究者のキャラによるものかもしれない)、なんか違和感もある。この学会の年会は(良い意味で)お祭りのであり、若者の参加も多く、生命科学の未来を作る会とも思うので、その点は他の年会と違って良い部分であり、その部分は維持(あるいは強化)して行ってもいいかと思う。おっさんおばさん爺さん婆さんのための会でなく、未来志向の会であり続けてほしい(シニアが壇上ではなく、オーディエンスやサポーターとして会を盛り上げるような形式が望ましいのかもしれない)
※	ハイブリッド開催は大変なご苦労だったと思います。組織委員会の皆様に感謝いたします。
※	経費削減や年会費増額をしたとしても、年会のハイブリッドをぜひ続けてほしいです。特に私のように小さい子どもがいて共働き家庭の場合オンサイト参加は難しいので、オンラインでも参加可能なら気軽に参加登録できます。オンライン参加された方の属性調査をされたら、私のような方が多いのではないかな?と思います。
※	例年、シンポジウムやワークショップは立ち見状態で、集中して参加できる環境になかったと感じていましたが、今回はオンライン視聴ができたので、非常に参加しやすかったです。今後、ポスター発表はすべてオンラインで構わないかと思いますが、口頭発表は可能な限りオンラインを取り入れて頂けたら有難いです。
※	学会スタッフの皆さまの準備のおかげで、久々のオンサイト学会参加はとても楽しいものでした。今後、オンライン上での研究発表の機会はますます増えてくると思います。この実現のためには、(1)オンライン発表を理解してサポートしてくれるスポンサー企業の存在、(2)速い・強いネットワーク回線の確保、(3)オンライン発表でのデータの取り扱い方の基本の周知、(4)使いやすいオンラインプログラム閲覧システムが重要になってくると思います。各点について、現状では十分に準備されているとは言い難い難しい状況ではありますが、それらを改善しつつ、発表の機会を継続して作っていただけると
※	シンポジウムのオーガナイザーがマンネリ化しているように感じる
※	今回は現地参加であったが、ハイブリッドは非常に良かったのでコロナの状況に関わらず今後も続けてほしい。
※	まず何より、視聴サイトの完全な改変もしくは利便性を重視した改善を希望する。特に検索サイトについては大いに改善すべきである。
※	正直なところ、今回のハイブリッド開催は失敗だと思います。上記のように見たい講演をほとんど見られませんでした。次回も同じ状態ならば年会参加をやめます。英語によるプレゼンについて。今や英語プレゼンがどの学会でも当然になっていますが、学会は他国の大物研究者への沼いよりも、自国の研究者を育てて日本の科学発展に寄与すべきだと思います。英語教育を行う目的ならば、学会などが別に専門の機会を設けることが必要だと思います。
※	応援ソングや、市民公開講座の発表は楽しかった。これからの若い人をこの分野に誘うには、夢や楽しさをアピールできていて良いと思う。一方で、壇上で討論されている方々は、分子生物学分野で成功されている方々ですが、研究や不安定なポジションなどで苦労している研究者や研究をやめた方々も大勢いる現状では、そのような苦労している研究者がこのような発表を聞くと、かえって辛くなったり、しらけてしまったりするように思う。様々な状況の研究者が、ハッピーになれるような、分子生物学会の活動を期待します。
※	今回アプリが無くスケジュール管理をするうえで非常に不便だったので今後は是非復活させていただきたいと思います。口頭発表についてはオンラインの方が会場の行き来をせずに済み、かつ聞き取りやすいため、今回オンサイトよりも非常に便利だったと感じました。ポスター発表をオンラインで行うのは資料の見せ方等を含め諸々と改善できる点が多いと感じました。現状オンサイトで行う方が良いように思います。
※	オンサイトがやっぱりいいですね。運営委員の皆様には大変感謝しております。お疲れ様でした。
※	オンサイトで参加できる学会に幸せを感じました。自分はオンサイト派なのでハイブリッドでも必ずオンサイトで参加すると思いますが、上述したようにZoomも一部残した方がよいと思います。もしオンラインポスターを継続するのであれば、夏のIIBMP2021で行ったような、オンライン上にポスター会場を作成してしまう方が議論が活発になってよいと思いますが、「オンラインとオンサイトで別の学会になっているようだ」という意見もあり、ポスターはオンラインを継続する意義もあまりないように思います(ハイブリッドの場合)。
※	年会参加費について、選択肢があっても良いと思います。オンライン参加のみの参加費、オンライン・現地参加の参加費、現地参加の参加費、プログラム抄録集(有料)など海外の学会では選択肢で選んで合計額を出す参加申し込みもありました。
※	大会長、組織委員の皆様、世の中の状況が読めない中、準備が大変だったと察します。ご苦労様でした。そして、ありがとうございました。
※	オンラインでの学会などについて初めは不慣れでストレスでしたが、慣れるとオンサイトでの学会より遥かに費用面や時間面でメリットが多いと感じている。すぐには難しくても将来的には完全オンラインを目指すべきだと思う。
※	歌を歌ってるひと、とんだ学会の私物化だなと思った。やめてほしい。
※	オンサイト参加の場合、オンラインのシンポジウムやワークショップに参加しそびれてしまうことが多いです。オンサイト会場にもオンライン各発表をリアルタイムで見られる部屋があれば、パソコンのバッテリーやインターネット接続を気にせずにオンラインの発表も聞くことが出来ると良いと感じました。
※	せっかくビデオ通話システムを設けていただいたのですが、現実にはポスターに来る人の対応が精一杯でした。
※	「アプリがなく、代替の年会サイトが使いづらい」という意見に尽きる。従来毎年新たに配布していた年会アプリを更新型にして毎年機能を追加する形に変えたほうがよいと考える。現状のまま毎年行い続けるのは適切ではない。オンサイトに拘ってウェブ発表の形態を現状のまま蔑ろにするのは悪手である。
※	やはり、ポスター会場は現地の方が盛り上がる、実のある議論ができる。講演については、海外の発表者はネット参加可能とし、国内研究者は、現地発表を原則とする。オンライン同時開催はする必要はないと思う。
※	オンサイトで参加しましたが、今回は「いい感じに空いていたな」と思います。聴きたい講演の時間が被ってしまうわけでもなく、ポスターが多すぎて全部回れないということもなく、休憩したい時に椅子が空いていないということもなく、(参加者が少ないというのは、主催する方にとっては頭の痛い問題なのは理解はしますが)良い感じのオンサイト:オンライン比率にすることで参加者の分散をはかる、というのが鍵なんじゃないかな。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でもちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	発表内容が充実していて日本の生物学を引っ張る学会だと感じました。その反面、ベテラン勢の「完成された」発表が多く、そういうのは遅かれ早かれ論文で発表されるので学生や若手の荒削りで未完成的な発表の場としての学会でもあってほしいと思います。というか本来はシンポジウムとワークショップでそのような使い分けがなされていたのでは？分生は間口が広いのが良いところだと思いますがワークショップはオーガナイザーの設定したテーマに合わないと思わないので、薬学会の「一般口頭発表」のようにテーマを設定せず大まかな分野だけ決まっているセッションがあるといいと思います。
※	徐々に大規模な学会に参加でき大変勉強になり楽しかったです。オンサイトの方が研究者同士の意見交換がしやすく、オンラインの発表は参加がやすかったです。今後も年会をハイブリッドで続けてほしいです。会場は首都圏が良いです。
※	通常のフォーラムやシンポジウムは参加者がほとんど研究者で、間違っても発表中にカメラを出すようなことはなかったが、市民公開講座の自由な雰囲気写真で撮ってもよいような感じになったのがよくなかったと思う。市民公開講座で斜め前の座席に座っていた50-60代の男性がずっと挙動不審な様子でスマホを操作し、発表者のうちの最も若い女性の先生の写真ばかりを撮っていた。カメラロールは若い女性の写真で埋め尽くされていて、非常に不安を感じた。許可されたカメラ以外での撮影は一律禁止としたほうがよいのではないか。
※	コロナの状況がどうなるか不明ですが、以前に戻れるならオンサイトを中心とし、一部や数年に一度バーチャル開催とするのがわかりやすいと思います。未発表データを入れた活発な討論ができる環境を作ってもらいたいです。オンサイトだったので、会場はいつもより空いていて快適でした。ポスターにも近づきやすくて、それはありがたかったです。適正人数だったと思いました。年会的あり方というか、学会の在り方を考え直して、若者へのアピールを意識しないとあっという間に会員数が減少するのではないかと思います。企業やベンチャーをうまく巻き込んで、奨学金や研究費を支給できると人は集まると思います。結局お金がないと実験できず、データが無く、淘汰されます。
※	分子生物学会ならびに生物系は将来的に衰退していくことは避けられない。しかし基本的な学会の存在の意義として、発表して良いディスカッションができて良いアイデアやアドバイスが得られたか、面白い発表が聞けたか、またオンサイトの良い点である他者との交流ができた、という事が達成されたら良いかと思う。良い学会のオーガナイズを期待する。
※	オンサイトで発表している際に、発表者はzoomサイトにはログインしていないため(且つ自身のPCを発表デスクに預けているため)、自身の発表に寄せられた質問を、見る事ができないのが残念でした。せっかく頂いた質問ですが、座長に取り上げて頂かなかった分は、どのようなものがいくつかあったのか全く把握できておらず、お答えすることもできず残念です。その場では厳しくとも、後日どのような質疑が寄せられていたか知ることができたら強く思いました。
※	学会期間中だけでなく、オンライン視聴期間を長めに設けていただければ、じっくりと聴ける機会が増えます。分子生物学会は異分野を知る機会としてとても貴重な学会(希有な学会)といえます。その特色を失わないような運営を期待しています。
※	年会は、横浜と神戸に固定した交代開催が、参加者として色々な面で利便性が高く、予定も立てやすいと思う。
※	ポスター会場で、オンラインを選択した発表者のパネルを省略したために、偶数・偶数・偶数など連続し、密になった。少しばかりの経費削減効果は少なく、全員分のパネルを用意すべきだった。オンライン発表者のポスター発表を聴き議論したかったが、スマホでは出来なかった。あんな人ごみの中をノートPCを片手に参加するのは？紙ベースのプログラム(簡易版)すらないのは不便の極みだった。
※	ポスター発表は、オンサイトとオンラインで分断されていたと思います。オンサイトのポスター発表はいつもより通路が広くっており、話も聞きやすかったと思います。例年が多すぎるのかもかもしれません。一方、オンライン発表のほうは全く参加しておらず、オンラインのポスター発表が成り立っていたのか疑問が残ります。
※	コロナ禍中、ハイブリッド開催いただいたこと大変感謝しております。複数のオンライン学会に参加しましたが、オンサイトでできないコミュニケーションがたくさんあることを再認識しました。是非以降もオンサイトをなくさないように希望いたします。
※	発表者ツールを使った発表ができるようにしてほしい。次のスライドをみて、何を話すべきかを考えて話すことに慣れ過ぎてしまった。無理ならば、個人のパソコンを壇上に載せて発表できる形式にしてほしい。
※	ケチるところを間違っている。過去最低の不便さであった。
※	日本生化学会大会と、時期も内容も企業展示も益々近くなっており、運営や参加は大変になりますが、やはり合同開催を基本としてほしい。若い人や学生からもなぜ分かれてやっているのかを問われて答えられない。
※	年会の運営はオンサイトとオンラインとも良かったと思います。今回は1日目と2日目はオンライン、3日目はオンサイトのポスター発表で参加しましたが、改めてオンサイトの良さに気づかされました。
※	現在のオンラインの形式では、ポスター発表は少し難しいように感じました。システムの面では、ポスターのスケジュール画面での操作に少しタイムラグがあるように感じたこともあり、演題を探すのに少し難がありました。また、複数のポスターを大まかにでも1画面でパッと見れるようになっている方がよかったのでは、と思いました。オンラインでやるのであれば、“現地で歩き回って、何となくポスターを見る”というような体験をできるだけ再現できるシステムが必要ながります。また、ポスターを見た後、実際に意見交流画面に入るまでのハードルがかなり高いようにも感じました。さらに、ポスターを見にきていただいた方に説明する際にも、レーザーポインターで示す、などできないのが難点でした。また、なんとなく、現地-現地、オンライン-オンラインでの交流になっているような気もして残念でした。オンラインと現地のポスターの時間は分けてもよかったのでは、とちょっと思いました。一方で、オンラインで各種講演を聞けるのは発表が聴きやすくてよかったです。
※	「現地参加」すると「オンライン」のポスター発表を確認するタイミングが難しく、結局、「オンライン」のポスター発表はほとんど確認できませんでした。また、「現地参加」でポスター発表した場合、対面でのdiscussionに注力し「オンライン」からの反応はほとんど確認できませんでした。「現地参加」と「オンライン」のハイブリッドの場合、「現地参加」者は、「オンライン」の方への意識が薄れるように感じます。個人的には、「現地参加」を基本にし、シンポジウムの一部の「海外招待」の演者の先生のみ、オンライン可にするのが良いように思います。もしオンラインを主軸にする必要がある状況ならば、全面オンラインの方が対応しやすいうように思います。
※	かなり厳しい意見を上述しているのでそれを参考にさらなる発展をお祈りします。
※	今回のような感じであればオンラインで参加しようとは思えない。経費が足りないのに安心ステッカーとかドリンクスナック無料配布はいかがなものでしょうか？
※	この状況の中でオンサイト開催を実施していただき感謝しています。2年ぶりに学会の雰囲気を味わうことができました。随分久しぶりに知人に会うことができ、やはりオンサイトはいいなあと感じました。
※	オンラインへの準備ができておらず、ずさんな感じを受けた。
※	1日のプログラムが多すぎる気がしました、もう少し短くして開催日数を増やした方が、ディスカッションが盛んになる気がし

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	制約の多い中、思い切って開催していただいたのはとても良かったと思います。久しぶりの学会参加は楽しかったです。課題はありますが、今後も続けてほしいと思います。PDFは印刷前提の形式なので、スマホやPCで閲覧するには、いちいちスクロールが必要になり不都合です。Web上に直接情報載せてもらえるより良いです。また、今回のポスターセッションはオンサイトとオンラインが完全分離した形になってしまったので、今後、改善してもらえるとありがたいです。
※	年会長および組織委員会の皆様のご尽力に感謝しかありません。ご苦勞様でした。
※	オンラインでの視聴において、全体的に音量が低かったということはないでしょうか。特に司会や演者の方がマイクから離れる。顔の向きを変えるなどでかなり聞き取りにくい時がありました。その場合にすでに音量設定が最大になっていたため、音量を調整することができませんでした。
※	分子生物学会での口頭発表はほとんどが招待講演に限られるので、新規参加者に易しくない気がする。海外で学位を取り、海外でずっとポスドクをしていて戻ってファクティーを始めましたというような人が会員に知られて多くの人に研究成果を発表できるようになるまでには時間がかかる。
※	オンライン学会の良さ(交通アクセス面や周りを気にしなくて良い点など)をコロナ禍で認識したが、一周まわってやはり分子生物学会は現地参加が良いと再認識した。手軽な小規模発表会は誰でも国内外からzoomでオーガナイズできる時代になった。したがって異分野に進んだ学者仲間と大勢で集まること、普段は興味が無かったり手が届かなかったりする分野を勉強に行く機会を作ること、これが若手にとっての分子生物学会の存在意義である。「若手は現地ポスター前でおしゃべりしたい」わけではない、こんなことは年齢関係なくzoomでできるのである。小規模学会と分子生物学会の立ち位置の違いについて、議論していただけたらと思うし、今回の現地開催を支えた準備委員会に感謝したい。
※	何も変える必要はなく、今まで通りやって欲しいです。
※	大変な中オンサイトでの開催ありがとうございました。2年ぶりに現地での学会に参加し、やはり学会はその場について参加するほうが良いとつくづく思いました。オンラインは便利ですし、交通費もかからないので地方から参加するにはいいですが、やはり人とのコミュニケーションが圧倒的に少ないと感じます。学会は人とひととのつながりの場を提供することが重要だと思いますので、ぜひ現地で開催していただきたいです。出張してしっかりと時間をとって様々な人や、研究分野と出会う学ぶということは大事だと思いました。オンサイト開催で学生もとても楽しんでいました。HPが更新されたらメールでも連絡してもらえたらよかったです。
※	分子生物学の本筋であるDNA複製やRNAIに関わる研究分野は毎回中心分野として含めるとして、それ以外の分野(例えば細胞生物学に近いもの、癌関連研究など)は、各回ごとに重点化の度合いを変えて特色を出していいと思います。そして4-5年に一度生物系の合同年会を開催して全体を見れる機会があるのが理想です。調整は難しそうですが。
※	横浜へは東京からの通いだだったので、9時スタートは良かった。フォーラムは遅くなるので出にくくなるべく多様な発表を聴きたいので、部屋数を増やすよりは期間を長くする方がありがたい。予算の問題もありますが、規模が大きいことであるような企業展示が集まるメリットはあると思うので、ある程度の参加者の規模の確保は必要だと想像します。
※	増加し続ける研究者の業務と、減少傾向の会員数とを考えると、今のまま大規模な年会を開催するよりはハイブリッドを主にするか、改めてオーバーラップする他学会との合同開催を主にするなど、今後の年会は研究者の負担がトータルで少ない形式にされた方がいい気がします。今回の年会は塩見会長の丁寧なメッセージがタイムリーに次々と出されていた点も素晴らしかったと思います。開催にあたり関係の皆様のご尽力に感謝しています。
※	シンポジウム、ワークショップはオンライン、オンサイトの併用が良いと思う。これまで部屋のキャパに制限されていた点が改善できるのは大きい。さらに、費用面で参加を見送っていた学生などもオンラインで学会に参加できれば学会へ引き込むキッカケ作りと大きいと思う。
※	とてもよく行き届いておりお世話になりました。次回楽しみにしております。引き続きよろしく願いいたします。*ポスター会場付近にクロークを設置いただけますと助かります。
※	毎回の年会でテーマが設定されていますが、意味があるのか。主催する側には思入れがあるかもしれないが、参加する側としては全く気にしたことがない。
※	シンポジウム等のオンライン配信は画像も見やすくなるため今後も続けてもらいたい。
※	シンポジウムやワークショップが並行してたくさん演題をやっているので、見たい演題が重なる場合がある。後日オンデマンドで見られるとうれしい(期間限定でよいので)。
※	複数の会場での発表・議論を見ていて、日本語のセッションの方が明らかに議論も盛り上がり、大学院生と思いき若手研究者の議論参加率も高かったように思えます。徹底的に議論できる場を提供するのか、海外研究者による最新の知見を聴講する機会を提供するのか、あるいはその両方を目指すのか、学会の立場・役割をもう一度真剣に考える時期にあるの英語のシンポジウム、ワークショップが多すぎた。日本語にしてほしい。
※	旧帝大以外のfacultyもボードに入れて欲しい。分子生物学会は発表内容は優れているが、組織的には凡庸であり、意思決定が上の方で済んでいる印象がある。末端の会員への配慮が足りていない。
※	会員に英語を使わせて国際発信力を高めたい気持ちはわかるのですが、本当にそれが分子生物学会の重視すべきことなのでしょうか。日本人同士のつたない英語のディスカッションを分子生物学会で無理して行う必要はないでしょう。このままでは、シンポジウムなどが、英会話の得意な一部の上位研究者のフィールドに偏ってしまう可能性もあります。むしろ、黎明期のマイナーな分野について、日本語での丁寧な発表や議論をする方が、将来の科学研究の質は高まると思います。参加者にとって、分子生物学会は英会話学習の場ではなく、新たな知識の学びの場としての役割があることを上層部には理解していただきたいと思えます。英語会話力の十分でない研究者であっても、オリジナリティーの高い英語論文を書く研究者はいます。分子生物学会は、日本発のオリジナリティーの高い研究を育てる場として機能してほしいと切に願っています。
※	従来のオンサイト開催だとしても、冊子配布やPDFのベタ打ち物を配布するかどうかなどの議論ではなく、DXを積極的に大胆に取り入れた形を模索するのがいいのではないのでしょうか。どこにどのように取り入れるかなどの議論の方が建設的だと
※	久しぶりのオンサイトの学会で、非常に楽しかったです。ありがとうございました。
※	高校生参加は非常に良かったと思います。高校生や高校の先生と交流できる時間があってもよいのかな、と思いました。
※	特になし。
※	会の規模が大きくなり、自分の専門分野のことを王フォローするための会としてはちょっと希薄で効率が悪い会になっているよう感じることもあります。ただ、専門外の異分野だけ少し話を聞いてみたい、というようなワークショップにふらっと立ち寄って勉強するには最適な場となっているとも感じます。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	今回はハイブリッド開催で全体的にとても良かったと思います。(できれば、オンラインのサイトが使いやすく、従来のアプリ様の形でマイルスケジュールも組めるようになっていたらありがたいと感じました。)。それには費用の面の負担も大きいことと存じます。以前より意見がありますように、(様々な事情で厳しい面もあるようですが)、生化学会と分子生物学会の合同開催(開催日時が近く、一部の分野は発表者も内容も重なっていたこともあり)は再考しても良いのではないかと感じました。
※	写真や動画の撮影はポスター会場を含めて禁止であることを、もっと幅広く頻繁に周知してほしい(会場に明記するなど)。
※	ワークショップのオーガナイザーにもっと情報を送ってほしい。一般からの採択者を選んだあと、その人たちの連絡先も自分で調べないとわからないのは非常に不便だった。また、海外からの一般発表からの採択者に関しても、こちらから問い合わせないとどうい状況なのか教えてもらえず、他の発表者の方々も不安がっていた。
※	今年度開催では特に多くの労力を払われたことに感謝しています。総じていえばよい学会だったと思います。ただ、参加者や出展会社の減少、学会のアプリの改良は必要と感じます。
※	学会は情報収集、勉強のみのものではなく、研究者の交流の場でもあるので、オンサイト中心でよいと思います。
※	コロナ禍で大変な中、現地開催で発表できその点では良かったと思う。その一方でポスターのオンライン化、コメント機能などあまりうまく活用できていなかったのも、次回以降は改善すべきである。要旨の検索機能がないなどの不満もあった。
※	オンサイト参加は、怖さがあり見合わせました。一方で、オンライン参加で、例年通りの収穫が得られるか確信が持てず、結局参加自体を取りやめました。昨年、今年のオンライン部分に、参加者が手応えをどの程度感じていらっしやるか知りたいです。また、実り多いオンライン参加のノウハウを教えてください、次回以降に希望が持てます。
※	(限りある学会運営資金のなかで)優先順位を明確にすべきだったと思う。オンラインがおおいことを見込むなら、抗原検査は不要であったし、オンサイトで安心して参加してもらうことを目的ならクロークやネット環境をより整備すべきだったと思いました。クロークがいっぱいになり預けられない状況でした。
※	パンデミックの状況が直前まで不確定な状況のなかで開催を実現させた組織委員会に感謝します。参加者の立場ではリモートで複数会場の講演を聴講できるハイブリッド方式のメリットは大きい。今回はオンサイト参加者も多く、会場がガラガラということもなかったのは幸いだった。しかし運営側の目で見るとハイブリッド運営のための機材、スタッフの投入量は大きく、コスト面で他のサービス(アプリやオンデマンド配信)を犠牲にした面があったように感じる。
※	アプリは必須オンライン検索サイトの充実冊子はいらぬ
※	大学院生たちを育てる観点から言えば、オンサイトの利点の方が、オンラインの利点よりも大きいと感じる。過去の大会でのアプリは便利だったので、今回も今後も、オンサイトで参加するにあたり、アプリは欲しいと感じた。
※	子育て世代が参加しやすいタイムスケジュールのプログラム(小さい時はもちろん、小学生になると泊まりの出張に連れて行くのは厳しい)にしてください。
※	分生年会最初のハイブリッド開催としては、成功だったと思う。不満はいろいろとあるかもしれないが、塩見美喜子会長以下、全てのスタッフはよく頑張ってくれてサポートしてくれていたと思う。今後、この経験は生かされ、不備なところは、どんどん改善していくと思う。
※	やはりオンサイトでの年会開催の重要性を再認識しました。特に学生さん達にとっては、研究者・科学者コミュニティの幅広い多様性を感じる機会として、大いに刺激を受けて励まされるだろうと思います。研究成果の発表と議論だけに限ればオンラインでも事足りると思いますが、必要最低限以下の情報までしか得られないので、若い世代に希望を与えるにはオンサイトの年会が重要だと思います。オンラインの利点として、(時差の考慮は必要ですが)海外の研究者達からもご講演頂き易いことは大きいので、この利点は今後も生かせると良いと思います。
※	パンデミックによりやむを得ずオンライン開催またはハイブリッド開催となったが、パンデミック後も完全オンサイトに戻すのではなく、この経験を活かした新たな学会のあり方に挑戦することが望ましい。塩見年会長および組織委員のみなさま、困難な時期にすばらしい学会を企画・運営してくださりありがとうございました。
※	Q8に関連してですが、シンポジウムやワークショップは、まとまった成果を挙げられた研究者の生の声を聴ける面白さがある反面、既に発表済みの「出来合い」や「馴れ合い」のものもあるので、刺激や感銘を受ける割合が少ないように感じます。そういう意味で、ポスター発表にもう少し力点を置くような学会の方が面白くなるように思います。
※	workshopで演者として参加したが、運営スタッフが横柄でとても不快だった。
※	分子生物学会は巨大になっているので、オンサイトの会議は他の学会にまかせて、オンラインのみにしてはどうか(少数意見だとは思いますが)。それによって海外からの参加を容易にして、他の学会とは一味違うものにしていくことも可能なので
※	オンライン併用は地方在住には有り難いです。また、難聴なのでオンサイトで参加中もオンラインの音声のみイヤホンで聞くことができ、非常に聞き取りやすく有り難かったです。